

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン フクオカジョシダイガク 公立大学法人福岡女子大学								
フリガナ大学の名称	フクオカジョシダイガクダイガクイン 福岡女子大学大学院 (Fukuoka Women's University Graduate School)								
大学本部の位置	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号								
大学の目的	学術の理論及び応用を教授研究し、精深な学識と研究能力等を養い、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	<p>平成23年度に設置された国際文理学部の理念は、「グローバル化する現代社会が直面している多様な課題に幅広く対応し、その課題解決に貢献していくことを目的に、人文・社会・自然科学の文理にわたる幅広い学問分野を結集して、国際的な共生・共存の視点から総合的に教育研究を行う」ことである。新学部が発足して3年が経ち、さらに大学院での高度な専門能力の修得をめざす学生が増えている。また、女性特有のライフ・ステージを踏まえた高度な専門教育研究を、その生涯にわたって提供できる高等教育機関への社会的要請も強い。他方、グローバル化する経済社会は、国際社会への高度な適応能力を修得した高度な女性の専門職業人を必要としている。</p> <p>このような状況を踏まえて、本学の建学の理念である「次代の女性リーダーの育成」を更に充実・発展させ、高度の専門的能力を持った女性リーダーを社会に送り出すために、既設の文学研究科を廃し、その教育研究資源を継承しつつ、新たに社会科学分野を充実させた「大学院人文社会科学研究科」を設置する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	開設時期及び 開設年次	所在地	【基礎となる学部】国際文理学部国際教養学科 14条特例の実施
	人文社会科学研究科 (Graduate School of Humanities and Social Sciences)	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次	福岡県福岡市東区香 住ヶ丘1丁目1番1号	
	言語文化専攻 (Master's Program for Language and Culture)	2	4	—	8	修士(文学)	平成27年4月 第1年次	同上	
	社会科学専攻 (Master's Program for Social Sciences)	2	4	—	8	修士(社会科学)	平成27年4月 第1年次	同上	
計		8	—	—	16				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	大学院文学研究科 国文学専攻修士課程(廃止) (Δ5) ※平成27年4月 学生募集停止 英文学専攻博士前期課程(廃止) (Δ5) ※平成27年4月 学生募集停止 大学院人間環境学研究科(廃止) 環境理学専攻修士課程 (Δ4) 栄養健康科学専攻修士課程 (Δ4) 生活環境学専攻修士課程 (Δ4) ※平成27年4月 学生募集停止 大学院人間環境科学研究科 人間環境科学専攻(12)(平成26年6月届出)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	人文社会科学研究科 言語文化専攻	27科目	23科目	1科目	51科目	30単位			
人文社会科学研究科 社会科学専攻	29科目	8科目	0科目	37科目	30単位				

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新設	人文社会科学研究科言語文化専攻		7人 (7)	6人 (6)	4人 (4)	0人 (0)	17人 (17)	0人 (0)	6人 (6)
	社会科学専攻		8 (8)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	1 (1)
	計		15人 (15)	16 (16)	4 (4)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	6 (6)
	文学研究科英文学専攻博士後期課程		4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	1 (1)
	計		4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	1 (1)
	合計		15 (15)	16 (16)	4 (4)	0 (0)	35 (35)	0 (0)	7 (7)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		28人 (27)		22人 (22)		50人 (49)		
	技術職員		0 (0)		1 (1)		1 (1)		
	図書館専門職員		1 (0)		3 (4)		4 (4)		
	その他の職員		1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	計		30 (28)		26 (27)		56 (55)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	37,543.58㎡	0㎡		0㎡		37,543.58㎡		
	運動場用地	4,018.50㎡	0㎡		0㎡		4,018.50㎡		
	小計	41,562.08㎡	0㎡		0㎡		41,562.08㎡		
	その他	14,333.99㎡	0㎡		0㎡		14,333.99㎡		
	合計	55,896.07㎡	0㎡		0㎡		55,896.07㎡		
校舎		専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
		26,404.1㎡ (27,749.5㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		26,404.1㎡ (27,749.5㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	13室	7室	27室		2室 (補助職員 人)		8室 (補助職員 人)		
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数			申請研究科全体	
		人文社会科学研究科			35室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での特定不能なため、大学全体の数	
	人文社会科学研究科	188,612 [45,401] (183,402 [45,401])	2,612 [244] (2,612 [244])	14 [14] (14 [14])	1,516 (1,516)	125 (125)	0 (0)		
	計	188,612 [45,401] (183,402 [45,401])	2,612 [244] (2,612 [244])	14 [14] (14 [14])	1,516 (1,516)	125 (125)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体	
		2,448.1㎡		250		220,000			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		1,286.8㎡		弓道場H29年度完成予定		-			

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コスト含む)を含む	
		教員1人当たり研究費等		312千円	312千円	－千円	－千円	－千円		－千円
		共同研究費等		4,280千円	4,280千円	－千円	－千円	－千円		－千円
		図書購入費	14,583千円	4,583千円	4,583千円	－千円	－千円	－千円		－千円
		設備購入費	3,442千円	3,442千円	3,442千円	－千円	－千円	－千円		－千円
学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	県外生の第1年次の納付金は、1,056千円			
	818千円	536千円	－千円	－千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		福岡県(設立団体)からの運営費交付金により維持する。								
既設大学等の状況	大学の名称	福岡女子大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	文学部	年	人	年次人	人		倍		福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号 平成23年度より学生募集停止 平成23年度より学生募集停止 平成23年度より学生募集停止 平成23年度より学生募集停止 平成23年度より学生募集停止 平成23年度より学生募集停止 平成23年度より学生募集停止 平成23年度より学生募集停止 平成27年度より学生募集停止 平成27年度より学生募集停止 平成27年度より学生募集停止 平成27年度より学生募集停止 平成27年度より学生募集停止	
	国文学科	4	－	－	8	学士(文学)	－	昭和29年度		
	英文学科	4	－	－	8	学士(文学)	－	昭和29年度		
	人間環境学部									
	環境理学科	4	－	－	8	学士(人間環境学)	－	平成7年度		
	栄養健康科学科	4	－	－	8	学士(人間環境学)	－	平成7年度		
	生活環境学科	4	－	－	8	学士(人間環境学)	－	平成7年度		
	国際文理学部						1.02			
	国際教養学科	4	135	－	540	学士(国際教養)	1.01	平成23年度		
	環境科学科	4	70	－	280	学士(環境科学)	1.04	平成23年度		
	食・健康学科	4	35	－	140	学士(食健康学)	1.01	平成23年度		
	文学研究科						0.26			
	国文学専攻	2	5	－	10	修士(文学)	0.4	平成5年度		
	英文学専攻									
	博士前期課程	2	5	－	10	修士(文学)	0.2	平成5年度		
	博士後期課程	3	3	－	9	博士(文学)	0.16	平成9年度		
	人間環境学研究科						0.66			
	環境理学専攻	2	4	－	8	修士(人間環境学)	0.37	平成12年度		
栄養環境科学専攻	2	4	－	8	修士(人間環境学)	1.37	平成12年度			
生活環境学専攻	2	4	－	8	修士(人間環境学)	0.25	平成12年度			
附属施設の概要	該当なし									

公立大学法人福岡女子大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成26年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
福岡女子大学				→	福岡女子大学				
国際文理学部					国際文理学部				
国際教養学科	135	—	540		国際教養学科	135	—	540	
環境科学科	70	—	280		環境科学科	70	—	280	
食・健康科学科	35	—	140		食・健康科学科	35	—	140	
計	240	—	960		計	240	—	960	
福岡女子大学大学院				→	福岡女子大学大学院				
					<u>人文社会科学研究科(M)</u>				研究科の設置(認可申請)
					<u>言語文化専攻</u>	4	—	8	
					<u>社会科学専攻</u>	4	—	8	
					<u>人間環境科学研究科(M)</u>				研究科の設置(届出)
					<u>人間環境科学専攻</u>	12	—	24	
文学研究科					文学研究科				
国文学専攻(M)	5	—	10		国文学専攻(M)	0	—	0	平成27年4月学生募集停止
英文学専攻(M)	5	—	10		英文学専攻(M)	0	—	0	平成27年4月学生募集停止
英文学専攻(D)	3	—	9		英文学専攻(D)	3	—	9	
人間環境学研究科					人間環境学研究科				
環境理学専攻(M)	4	—	8		環境理学専攻(M)	0	—	0	平成27年4月学生募集停止
栄養健康科学専攻(M)	4	—	8		栄養健康科学専攻(M)	0	—	0	平成27年4月学生募集停止
生活環境学専攻(M)	4	—	8		生活環境学専攻(M)	0	—	0	平成27年4月学生募集停止
計	25	—	53		計	23	—	49	

教育課程等の概要															
(人文社会科学研究科言語文化専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
日本語文化コース	日本語教育特別研究	1・2前		2		○									
	音韻・表記特別研究	1・2前		2		○			1						
	日本語文法特別研究	1・2後		2		○				1					
	日本史特別研究	1・2後		2		○					1				
	古典文学特別研究Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	古典文学特別研究Ⅱ	1・2後		2		○			1						
	古典文学特別研究Ⅲ	1・2前		2		○				1					
	近・現代文学特別研究	1・2後		2		○					1				
	視覚文化特別研究	1・2前		2		○					1				
	日文学特別演習Ⅰ	1前		2			○		3	2	1				
	日文学特別演習Ⅱ	1後		2			○		3	2	1				
	日文学特別演習Ⅲ	1前		2			○				1				
	日文学特別演習Ⅳ	1後		2			○				1				
	日本語教育実習	1・2後		2				○				1			集中
	原典講読Ⅰ	1後		2		○			2	1					オムニバス
	原典講読Ⅱ	2前		2		○			1	1	1				オムニバス
	日本語学特別講義	1・2前		2		○									兼1 集中・隔年
	漢文学特別講義	1・2前		2		○									兼1 隔年
	国文学特別講義	1・2後		2		○									兼1 隔年
	英語圏言語文化コース	英語圏文学と文化特別研究Ⅰ	1・2前		2			○		2					
英語圏文学と文化特別研究Ⅱ		1・2前		2			○			1					
英語圏文学と歴史特別研究Ⅰ		1・2後		2			○		2						
英語圏文学と歴史特別研究Ⅱ		1・2後		2			○			1					
英語と文化特別研究Ⅰ		1・2前		2			○			1					
英語と文化特別研究Ⅱ		1・2前		2			○		1						
英語と歴史特別研究Ⅰ		1・2後		2			○			1					
英語と歴史特別研究Ⅱ		1・2後		2			○		1						
英語圏文学・言語とジェンダー特別演習		1・2前		2			○		2						
西欧文化史特別研究		1・2前		2			○				1				
英語圏言語文化文献講読Ⅰ		1・2前		2			○		1	1					
英語圏言語文化文献講読Ⅱ		1・2後		2			○		2	1					
英語圏言語文化文献講読Ⅲ		1・2前		2			○		2	1					
英語圏言語文化文献講読Ⅳ		1・2後		2			○		1	1					
第二言語習得概論		1・2前		2				○				1			
英語圏言語文化特別講義Ⅰ		1・2前		2			○								兼1
英語圏言語文化特別講義Ⅱ		1・2後		2			○								兼1
英語圏言語文化特別講義Ⅲ	1・2後		2			○								兼1 隔年・集中	
共通	比較文学研究Ⅰ	1・2前		2		○			1						
	比較文学研究Ⅱ	1・2前		2		○			1	1					共同
	世界の中の日本伝統文化	1・2後		2		○				1					
	漢字文化圏の比較文化史研究	1・2前	2			○			1		1				兼2 オムニバス
	書物と印刷	1・2前		2		○			2						共同
	総合演習Ⅰ	1通	1				○		7	3					集中
総合演習Ⅱ	2通	1				○		7	3					集中	
小計(44科目)	—	4	82	0				7	6	4	0	0		兼5 —	
基本科目	研究の倫理と方法	1・2前	2			○									兼1
	歴史と社会	1・2前		2		○				1					
	グローバル社会と英語	1・2後		2		○			1						
	アカデミックライティング・プレゼンテーション	1・2前		2			○				1				
	人文社会統計学	1・2後		2		○									兼1
	国際研究活動	1・2後		2		○			1		1				兼3 ※実習・集中
小計(6科目)	—	2	10	0				1	1	2	0	0		兼5 —	
研究指導科目	修士特別研究	1～2	8				○		7	3					
	小計(1科目)	—	8	0	0				7	3	0	0	0		0 —
合計(51科目)		—	14	92	0				7	6	4	0	0		兼6 —

学位又は称号	修士(文学)	学位又は学科の分野	文学関係	
卒業要件及び履修方法		授業期間等		
修了要件 30単位 1) 専門科目 必修科目を含む18単位以上 総合演習Ⅰ(必修) 1単位 総合演習Ⅱ(必修) 1単位 (ただし、所属する各コースの科目から12単位以上) 2) 基本科目 必修科目を含む4単位以上 研究の倫理と方法(必修) 2単位 3) 研究指導科目 修士特別研究 8単位		1 学年の学期区分	2 学期	
* 専修免許取得のばあいは、日本語文化コース、英語圏言語文化コースのそれぞれで開講する 専修免許関連科目から、国語、英語の免許取得希望にそって、24単位を履修する。 専修免許取得のため受講した大学院履修科目は、原則として修士修了要件となる。		1 学期の授業期間	1 5 週	
		1 時限の授業時間	9 0 分	

教育課程等の概要															
(人文社会科学部社会科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	国際産業社会コース	産業社会解釈特別研究	1前	2				○		1					
		東アジア人口論特別研究	1・2後	2			○			1					
		マクロ経済学特別研究Ⅰ	1・2前	2			○			1					
		マクロ経済学特別研究Ⅱ	1・2後	2			○			1					
		ミクロ経済学特別研究Ⅰ	1・2前	2			○				1				
		ミクロ経済学特別研究Ⅱ	1・2後	2			○				1				
		国際経済学特別研究Ⅰ	1・2前	2			○				1				
		国際経済学特別研究Ⅱ	1・2後	2			○				1				
		経営学特別研究Ⅰ	1・2前	2			○			1					
		経営学特別研究Ⅱ	1・2後	2			○			1					
	国際経営特別研究	1・2後	2			○			1						
	人間関係論特別研究	1・2前	2			○				1					
	国際関係コース	国際関係論特別研究Ⅰ	1・2前	2			○				1				
		国際関係論特別研究Ⅱ	1・2後	2			○				1				
		国際法特別研究Ⅰ	1・2前	2			○				1				
		国際法特別研究Ⅱ	1・2後	2			○				1				
		比較憲法学特別研究	1・2後	2			○			1					
		国際関係史特別研究Ⅰ	1・2前	2			○				1				
		国際関係史特別研究Ⅱ	1・2後	2			○				1				
		政治哲学特別研究	1・2後	2				○		1					
		グローバル協力論特別研究Ⅰ	1・2前	2			○				1				
		グローバル協力論特別研究Ⅱ	1・2後	2			○				1				
		国際社会学特別研究Ⅰ	1・2前	2			○				1				
		国際社会学特別研究Ⅱ	1・2後	2			○				1				
		ジェンダー特別研究	1・2前	2				○			1				※講義
		比較社会特別研究	1・2後	2			○				1				※演習
	比較地域文化特別研究	1・2前	2			○				1					
	中国現代文学と文化特別研究	1・2後	2				○			1					
	共通	国際演習Ⅰ	1通	1					○	8	5				
		国際演習Ⅱ	2通	1					○	8	5				
	小計(30科目)	—	2	56	0			—	8	10	0	0	0	兼0	
基本科目	研究の倫理と方法	1・2前	2			○								兼1	
	歴史と社会	1・2前	2			○								兼1	
	グローバル社会と英語	1・2後	2			○								兼1	
	アカデミックライティング・プレゼンテーション	1・2前	2				○							兼1	
	人文社会統計学	1・2後	2			○								兼1	
	国際研究活動	1・2後	2			○				3				兼2 ※実習・集中	
	小計(6科目)	—	2	10	0			—	0	3	0	0	0	兼6	
研究指導科目	修士特別研究	1~2	8					○	8	5					
	小計(1科目)	—	8	0	0			—	8	5	0	0	0	0	
	合計(37科目)	—	12	66	0			—	8	10	0	0	0	兼6	
学位又は称号	修士(社会科学)			学位又は学科の分野				法学関係、経済学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
修了要件 30単位 1) 専門科目 必修科目を含む18単位以上 国際演習Ⅰ(必修) 1単位 国際演習Ⅱ(必修) 2単位 (ただし、所属する各コースの科目から12単位以上) 2) 基本科目 必修科目を含む4単位以上 研究の倫理と方法(必修) 2単位 3) 研究指導科目 修士特別研究 8単位								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(国際文理学部 国際教養学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
ファーストイヤー・ゼミ	ファーストイヤー・ゼミ I	1前	1				○		15	16	4			兼33
	ファーストイヤー・ゼミ II	1後	1				○		15	16	4			兼33
	小計(2 科目)		2	0	0		—		15	16	4	0	0	兼32
学術言語プログラム (A E P)	学術英語コミュニケーション I	1前	1				○				9	1		
	学術英語コミュニケーション II	1前	1				○				6			兼6
	学術英語コミュニケーション III	1後	1				○				6			兼5
	学術英語コミュニケーション IV	2前	1				○				9	1		兼5
	学術英語リスニング I	1前	1				○				8			兼2
	学術英語リスニング II	1後	1				○				5	1		兼3
	学術英語リーディング I	1前	1				○				9	1		兼4
	学術英語リーディング II	1前	1				○				5	1		兼8
	学術英語リーディング III	1後	1				○			2	8	1		兼3
	学術英語リーディング IV	1後	1				○		2	2	8	1		兼3
	学術英語リーディング V	2前	1				○		2	2	7	1		兼3
	学術英語ライティング I	1前	1				○				6	1		兼5
	学術英語ライティング II	1後	1				○				8			兼4
	学術英語ライティング III	1後	1				○				9			兼1
	学術英語ライティング IV	2前	1				○		2		7	1		兼5
	小計(15 科目)		15	0	0		—		4	2	9	1	0	兼17
学術日本語プログラム (A J P)	学術日本語リーディング I	1前			1		○				2			
	学術日本語リーディング II	1後			1		○				2			
	学術日本語リーディング III	2前			1		○				2			
	学術日本語ライティング I	1前			1		○				2			
	学術日本語ライティング II	1前			1		○				2			兼1
	学術日本語ライティング III	1後			1		○				2			
	学術日本語ライティング IV	1後			1		○				2			兼1
	学術日本語ライティング V	2前			1		○				2			
	学術日本語リスニング I	1前			1		○				2			
	学術日本語リスニング II	1後			1		○				2			
	学術日本語コミュニケーション I	1前			1		○				2			
	学術日本語コミュニケーション II	1後			1		○				2			
	学術日本語コミュニケーション III	2前			1		○				2			
	学術日本語日本事情 I	1前			1		○				2			
学術日本語日本事情 II	1後			1		○				2				
	小計(15 科目)		0	0	15		—		0	0	2	0	0	兼1
アドバンスト・イングリッシュ	英語上級 I	2・3・4後		1			○		1		1			
	英語上級 II	2・3・4後		1			○				2			
	英語上級 III	2・3・4後		1			○				3			
	小計(3 科目)		0	3	0		—		1	0	4	0	0	0
外国語科目	中国語 I	1前		1			○		1	1				兼2
	中国語 II	1前		1			○		1	1				兼2
	中国語 III	1後		1			○		1	1				兼2
	中国語 IV	1後		1			○		1					兼2
	中国語 V	2前		1			○		1					兼2
	中国語 VI	2後		1			○		1					兼2
	韓国語 I	1前		1			○				1			兼1
	韓国語 II	1前		1			○				1			兼1
	韓国語 III	1後		1			○				1			兼1
	韓国語 IV	1後		1			○				1			兼1
	韓国語 V	2前		1			○				1			兼1
	韓国語 VI	2後		1			○				1			兼1
	ドイツ語 I	1前		1			○		1					
	ドイツ語 II	1前		1			○				1			
	ドイツ語 III	1後		1			○		1					
	ドイツ語 IV	1後		1			○				1			
	ドイツ語 V	2前		1			○				1			
	ドイツ語 VI	2後		1			○				1			
	フランス語 I	1前		1			○				1			
	フランス語 II	1前		1			○							兼3
	フランス語 III	1後		1			○							兼3
	フランス語 IV	1後		1			○							兼3
	フランス語 V	2前		1			○				1			兼3
	フランス語 VI	2後		1			○							兼3
	英語 I	1前		1			○							兼1
	英語 II	1前		1			○							兼1
	英語 III	1後		1			○							兼1
	英語 IV	1後		1			○							兼1
	小計(28 科目)		0	28	0		—		3	5	0	0	0	兼8

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要															
(国際文理学部 国際教養学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
情報活用科目	情報インテリジェンス	1前・後	2				○								兼3 ※講義
	情報リテラシー	1前	2				○								兼3 ※講義
	小計(2 科目)		2	2	0		—		0	0	0	0	0		兼3
日本文化 理解科目	日本の伝統文化	1前		2			○			1					兼1
	現代日本文化	1前		2			○				1				
	福岡の文化と社会	1後		2			○			1					
	日本女性文化	1後		2			○			1					
	小計(4 科目)		0	8	0		—		0	3	1	0	0		兼1
語学研修科目	海外語学研修Ⅰ	1・2・3通		1				○		1					
	海外語学研修Ⅱ	2・3・4通		1				○		1					
	小計(2 科目)		0	2	0		—		1	0	0	0	0		0
体験学習科目	フィールドスタディ	1通		2						1					兼2
	国際インターンシップ	1・2・3・4通		2						1					兼2
	フィールドワーク	1・2・3・4通		2						1					兼2
	サービスマーケティング	1・2・3・4通		2						1					兼2
	小計(4 科目)		0	8	0		—		0	1	0	0	0		兼2
総合科目	グローバル化と多様性社会	1・2前		2			○			1	1	1			兼1
	地球環境と人類の未来	1・2前		2			○			2					兼3
	現代社会における生命と健康	1・2後		2			○			2					兼2
	小計(3 科目)		0	6	0		—		1	5	1	0	0		兼6
人文科学	国際文化論	1・2・3・4前		2			○			1					
	ジェンダー	1・2・3・4前		2			○			1					
	日本の言語と世界	1・2・3・4前		2			○				1				
	欧米言語文化概論	1・2・3・4前		2			○			1					
	言語とコミュニケーション	1・2・3・4後		2			○				1				
	歴史と文化	1・2・3・4後		2			○			1					
	人間の思索	1・2・3・4前		2			○		1						
	宗教学	1・2・3・4後		2			○			1					
	小計(8 科目)		0	16	0		—		1	4	1	0	0		0
社会科学	ジェンダーと法	1・2・3・4後		2			○			1					
	現代社会と法	1・2・3・4前		2			○			1					
	日本国憲法	2・3・4前		2			○			1					
	現代日本社会論	1・2・3・4前		2			○				1				兼1
	今日の東アジア社会	1・2・3・4前		2			○					1			兼1
	国際関係の成り立ち	1・2・3・4後		2			○		0	1					
	国際経済のしくみ	1・2・3・4前		2			○		1						
	組織運営のしくみ	1・2・3・4後		2			○		1						
	情報と社会	1・2・3・4後		2			○								兼1
	小計(9 科目)		0	18	0		—		3	2	1	0	0		兼3
自然科学	持続可能社会の設計	1・2・3・4前		2			○								兼2
	人をめぐる生命科学	1・2・3・4前		2			○								兼1
	国際社会における食の安全・安心	1・2・3・4前		2			○								兼1
	物質と環境	1・2・3・4後		2			○								兼1
	物理学と現代社会	1・2・3・4後		2			○								兼1
	数理学と現代社会	1・2・3・4後		2			○								兼1
	科学論	1・2・3・4後		2			○								兼1
小計(7 科目)		0	14	0		—		0	0	0	0	0		兼8	
芸術・ 感性	美術表現	1・2・3・4前		2											兼1 ※講義
	造形表現	1・2・3・4後		2											兼1 ※講義
	音楽表現Ⅰ	1・2・3・4前		2											兼1 ※講義
	音楽表現Ⅱ	1・2・3・4後		2											兼1 ※講義
	小計(4 科目)		0	8	0		—		0	0	0	0	0		兼2
健康スポーツ 実習	健康スポーツ実習Ⅰ	1前		1											兼1
	健康スポーツ実習Ⅱ	1後		1											兼1
	小計(2 科目)		0	2	0		—		0	0	0	0	0		兼1

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(国際文理学部 国際教養学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学部共通専門科目	異文化理解	2・3・4前		2		○			0	1					兼1		
	国際社会とジェンダー	3後		2		○				1					兼2		
	国際経済学	2後		2		○				1					オムニバス		
	生活と環境	2後		2		○									兼1		
	食料経済学	2後		2		○									兼5		
	食健康論	3前		2		○									兼1		
	社会調査法	2・3前		2		○				1					兼1		
	フィールド実践・研究推進論Ⅰ	1・2・3・4前・後		2		○				1					兼2		
	フィールド実践・研究推進論Ⅱ	1・2・3・4前・後		2		○				1					兼2		
	女性リーダー育成実習	3後		2				○		1					兼1		
	女性リーダー育成論	3・4後		2		○				1					兼1		
人権概論	1・2・3後		2											兼1			
小計(12 科目)			0	24	0	—			0	5	0	0	0	兼13			
学科学基本科目	文化・歴史	日本文学入門	1後	2		○			1								
		欧米文学入門	1後	2		○				1							
		英語学入門	2前	2		○				1							
		哲学入門	1後	2		○											
		歴史学入門	2前	2		○				1							
		東アジア地域研究入門	1後	2		○					1						
	小計(6 科目)		0	12	0	—			2	4	0	0	0	0			
社会システム	法学入門	1・2前		2		○				1					兼1		
	政治学入門	1・2後		2		○											
	経済学入門	1・2前		2		○			0	1							
	経営学入門	1・2後		2		○			2								
	社会学入門	1・2後		2		○				1							
	国際関係入門	1・2前		2		○			0	1							
	情報社会入門	1・2前		2		○									兼1		
	基礎数学	1前		2		○									兼1		
	基礎統計学	1後		2		○									兼1		
	応用統計学	2前		2		○									兼1		
小計(10 科目)		0	20	0	—			2	4	0	0	0	兼4				
学科学専門科目	日本語文化科目	概論・歴史・文化	日本史概論	1前	2		○									兼1	
			日本外交文化史Ⅰ	2前	2		○					1					
			日本外交文化史Ⅱ	2後	2		○					1					
			儒教思想史	1後	2		○										
			日本伝統芸能	2前	2		○					1					
			奈良時代の文化と文学	2前	2		○				1						
			平安・鎌倉時代の文化と文学	2後	2		○				1						
			江戸時代の文化と文学	2後	2		○				1						
			明治・大正時代の文化と文学	2前	2		○						1				兼1
			書道Ⅰ(書道芸術)	1前	2		○										兼1
			書道Ⅱ(書道実技)	1後	2		○			○							兼1
			美学美術史	1・2後	2		○										兼1
			日本文学史	2前	2		○					1					
			国語表現(音声・文法・表記)	2前	2		○				1						
			和漢比較文学	1後	2		○				1						
			近・現代日本文学の英訳研究	3後	2		○				1						
			中国古典文学Ⅰ	2前	2		○										兼1
			中国古典文学Ⅱ	2後	2		○										兼1
			日本語文化講読	2後	2				○			1					※講義
			日本語文化文献講読B(かな)	2前	2				○		1						※講義
			日本語文化文献講読A(漢文)	2後	2				○		1						※講義
			日本文化の科学的解析	2・3前	2			○			2						兼2
			日本文化史講義	3後	2			○						1			オムニバス
小計(23 科目)		0	46	0	—			4	3	2	0	0	兼7				

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																
(国際文理学部 国際教養学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学 科 科 目	日 本 言 語 文 化 科 目	文 学 ・ 語 学	漢文学講義	3・4前	2		○			1						
			上代日本文学講義	3・4後	2		○			1						
			中古日本文学講義Ⅰ	3前	2		○									兼1
			中古日本文学講義Ⅱ	3後	2		○									兼1
			中世日本文学講義Ⅰ	3前	2		○			1						
			中世日本文学講義Ⅱ	3後	2		○			1						
			近世日本文学講義Ⅰ	3前	2		○				1					
			近世日本文学講義Ⅱ	3後	2		○				1					
			近代日本文学講義	3前	2		○						1			
			現代日本文学講義	3後	2		○						1			
			漢文学実践研究	4前	2				○		1					※講義
			古典文学実践研究	4前	2				○		1					※講義
			日本語音韻論	3前	2			○				1				
			日本語表記論	3前	2			○			1					
			日本語文法論	3後	2			○					1			
			国語学実践研究	4前	2				○		1					※講義
			日本語教育概論	2前	2			○					1			
	日本語教授法Ⅰ	2後	2			○					1					
	日本語教授法Ⅱ	3前	2			○					1					
	日本語教育授業研究	3・4後	2				○				1			※講義		
	小計(20 科目)			0	40	0				3	2	2	0	0	兼1	
	演 習	日本語文化演習Ⅰ	3前		2			○		3	2	3				
		日本語文化演習Ⅱ	3後		2			○		3	2	3				
		小計(2 科目)		0	4	0				3	2	3	0	0	0	
	専 門 科 目	欧 米 言 語 文 化 概 論	哲学概論	2前	2		○			1						
			欧米史概論	2後	2		○								兼1	
			英文学史	2前	2		○				1					
米文学史			2前	2		○			1							
ドイツ言語文化概論			2後	2		○					1					
フランス言語文化概論			2後	2		○					1					
小計(6 科目)			0	12	0				2	3	0	0	0	兼1		
英 米 の 文 化 と 文 学		中世イギリスの文化と文学	3前	2		○			1							
		近・現代イギリスの文化と文学Ⅰ	3前	2		○				1						
		近・現代イギリスの文化と文学Ⅱ	3後	2		○				1						
		近・現代アメリカの文化と文学Ⅰ	2前	2		○			1							
	近・現代アメリカの文化と文学Ⅱ	3前	2		○			1								
	ポストモダン英語圏の文化と文学	2後	2		○			1								
小計(6 科目)		0	12	0				3	1	0	0	0	0			
英 語 学	英語音声学	2後	2			○		1								
	英語文法論	3前	2			○			1							
	英語の歴史	2後	2		○				1							
	英語文化論	2後	2		○			1								
	英語とジェンダー	3後	2		○			1								
小計(5 科目)		0	10	0				2	1	0	0	0	0			
英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	英語コミュニケーションⅠ	2後	2			○		1						兼1		
	英語コミュニケーションⅡ	3前	2			○		1						兼1		
	英語通訳の理論と実践	3後	2			○								兼1		
	英語文章表現演習Ⅰ	2後	2			○		1								
	英語文章表現演習Ⅱ	3前	2			○		1								
	英語翻訳の理論と実践	4前	2			○		1								
	小計(6 科目)		0	12	0				2	0	0	0	0	兼2		
欧 米 文 化 論	欧米文化理論	3後	2		○			1						兼1		
	科学と文学	3後	2		○			1								
	欧米文学と女性表象	3後	2		○			1								
	欧米文学と映像メディア	3前	2		○			1								
小計(4 科目)		0	8	0				3	0	0	0	0	兼1			
欧 米 言 語 文 化 文 献 講 読	英米言語文化文献講読Ⅰ	3前	2			○		1								
	英米言語文化文献講読Ⅱ	3前	2			○			1							
	英米言語文化文献講読Ⅲ	3後	2			○			1							
	英米言語文化文献講読Ⅳ	3後	2			○		1								
	ドイツ言語文化文献講読Ⅰ	3前	2			○		1								
	ドイツ言語文化文献講読Ⅱ	3後	2			○		1								
	フランス言語文化文献講読Ⅰ	3前	2			○			1					隔年開講		
	フランス言語文化文献講読Ⅱ	3前	2			○			1					隔年開講		
	小計(8 科目)		0	16	0				4	3	0	0	0	0		

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																					
(国際文理学部 国際教養学科)																					
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考							
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手								
学 科 科 目	欧米言語文 化科目	演習	欧米言語文化演習Ⅰ	3前		2			○			6	4								
		欧米言語文化演習Ⅱ	3後		2			○			6	4									
		小計(2 科目)		0	4	0		—			6	4	0	0	0		0				
	東アジア 地域研究科目	東 ア ジ ア		東アジア地域関係論	3後		2			○					1				兼1		
				東アジアの歴史	2前		2			○										兼1	
				女性たちとアジア	2前		2				○				1						
				アジアの現代文化	2後		2				○										兼1
				東アジアの法と社会	2後		2				○		1								兼1
				東アジアの政治と社会	3前		2				○				1						兼1
				東アジア経済論	3前		2				○				1						兼1
				東アジアの環境	2後		2				○										兼1
			小計(8 科目)		0	16	0		—			1	2	1	0	0			兼5		
		中 国		中国近現代史	2後		2				○			1							
			現代中国の文化	2前		2				○			1								
			中国社会論	2後		2				○											
			中国経済論	3前		2				○				1							
		小計(4 科目)		0	8	0		—			2	1	0	0	0			0			
	韓 国		朝鮮近現代史	2前		2				○									兼1		
			現代韓国の文化	2前		2				○									兼1		
			韓国社会論	2後		2				○									兼1		
			韓国経済論	3前		2				○			1						兼1		
		小計(4 科目)		0	8	0		—			1	0	0	0	0			兼3			
	中 国 語・ 韓 国 語		時事中国語講読	3後		2				○			1								
			時事韓国語講読	3後		2				○			1								
			中国語演習Ⅰ	3前		2				○			1								
			中国語演習Ⅱ	3後		2				○											
			韓国語演習Ⅰ	3前		2				○				1							
			韓国語演習Ⅱ	3後		2				○				1							
	小計(6 科目)		0	12	0		—			2	1	0	0	0			0				
演 習		東アジア地域研究演習Ⅰ	3前		2				○			3	2	1							
		東アジア地域研究演習Ⅱ	3後		2				○			3	2	1							
		小計(2 科目)		0	4	0		—			3	2	1	0	0			0			
国 際 開 発 ・ 国 際 協 力		国際関係論	2前		2				○			0	1								
		国際開発論	2後		2				○					1				兼1			
		開発法学	2後		2				○												
		国際機構法	3前		2				○				1								
		国際協力・NPO/NGO論	3後		2				○				1								
		コミュニケーション学	1・2・3・4前		2				○									兼1			
		異文化間コミュニケーション学	1・2・3後		2				○									兼1			
		国際社会学	2前		2				○				1								
		グローバル社会と人の移動	3前		2				○				1								
		国際環境政策論	3前		2				○										兼1		
		小計(10 科目)		0	20	0		—			0	3	1	0	0			兼4			
	国 際 関 係 科 目		国際法	2後		2				○				1						兼1	
			国際紛争と数理学	2・3後		2				○										兼1	
			平和と安全保障	3前		2				○				1							
		国際政治史	3前		2				○				1								
		政治思想史	3後		2				○				1								
		政治理論	3前		2				○				1								
		比較政治学	2前		2				○				0	1							
		現代日本政治	3後		2				○										兼1		
		日本政治史	3前		2				○										兼1		
		アメリカの政治と社会	3前		2				○										兼1		
		ヨーロッパ政治史	3後		2				○				1								
		現代ヨーロッパの政治と社会	3前		2				○				1								
	南アジアの政治と社会	3前		2				○				1									
	国際関係特別講義	3後		2				○			0	2									
	小計(14 科目)		0	28	0		—			0	4	0	0	0			兼4				
演 習		国際関係演習Ⅰ	3前		2				○			0	5								
		国際関係演習Ⅱ	3後		2				○			0	5								
		小計(2 科目)		0	4	0		—			0	5	0	0	0			0			

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要															
(国際文理学部 国際教養学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学 科 科 目	国際 マ ネ ジ メ ン ト	経営学	2前	2		○			1						
		国際経営学	2後	2		○			1						兼1
		会計学	2前	2		○									兼1
		国際企業会計	2後	2		○									兼1
		ファイナンス	3前	2		○									兼1
		日本・アジアの企業経営	3後	2		○			1						兼1
		企業戦略	3前	2		○			1						
		経営管理論	2後	2		○			1						
		人的資源管理	3前	2		○									兼1
		社会心理学	2後	2		○				1					
		行動心理学	3前	2		○				1					
		ビジネス英語	2前	2				○		1					兼1 隔年開講
		環境ビジネス	3前	2				○							兼1
		プロジェクトマネジメント論	3前	2				○							兼1
		プロジェクトマネジメント演習	3後	2					○						兼1
	小計(15 科目)			0	30	0			2	1	0	0	0	兼8	
	国際 経 済 ・ マ ネ ジ メ ン ト 科 目	ミクロ経済学Ⅰ	2前	2			○			0	1				
		ミクロ経済学Ⅱ	2後	2			○			0	1				
		マクロ経済学Ⅰ	2前	2			○			1					
		マクロ経済学Ⅱ	2後	2			○			1					
		計量経済学Ⅰ	2前	2			○			1					
		計量経済学Ⅱ	2後	2			○								兼1
		財政学	3前	2			○			0	1				
		金融論	3前	2			○								兼1
		経済政策	3前	2			○			1					
		地域経済	3後	2			○			0	1				
		経済成長	3後	2			○			1					
		開発経済学	3後	2			○			1					
		日本経済	3後	2			○								兼1
	アメリカ経済	3後	2			○								兼1	
	EU経済	3後	2			○								兼1	
	経済英語	2後	2					○		1				兼1 隔年開講	
	小計(16 科目)			0	32	0			1	1	0	0	0	兼5	
演 習	国際経済・マネジメント演習Ⅰ	3前		2				○	3	3					
	国際経済・マネジメント演習Ⅱ	3後		2				○	3	3					
小計(2 科目)			0	4	0			3	3	0	0	0	0		
卒 業 研 究	卒業研究演習	4通	4					○	15	16	4				
	卒業論文	4通	4					○	15	16	4				
	小計(2 科目)		8	0	0			15	16	4	0	0	0		
教 職 科 目	教職基礎論	1後		2		○			1						
	教育原理	3前		2		○			1						
	教育心理学	2前		2		○				1					
	教育行政学	2後		2		○								兼1	
	教育課程論	2前		2		○								兼1	
	国語科教育法Ⅰ	3前		2		○								兼1	
	国語科教育法Ⅱ	3後		2		○								兼1 隔年開講	
	国語科教育法Ⅲ	3後		2		○								兼1 隔年開講	
	国語科教育法Ⅳ	4前		2		○								兼1	
	英語科教育法Ⅰ	3前		2		○								兼1	
	英語科教育法Ⅱ	3後		2		○					1			3年毎開講	
	英語科教育法Ⅲ	3後		2		○					1			3年毎開講	
	英語科教育法Ⅳ	3後		2		○					1			3年毎開講	
	道徳教育の指導	3後		2		○			1						
	特別活動の指導	3後		2		○								兼1	
	教育方法学	2後		2		○				1					
	生徒指導論	3前		2		○				1					
	教育相談論	3後		2		○				1					
	教職実践演習(中・高)	4後		2				○	1	1					
	事前・事後指導	4通		1		○			1	1					
	中学校教育実習	2前		2					1	1					
	高等学校教育実習	4前		2					1	1					
	学校経営と学校図書館	3・4後		2		○								兼1 隔年開講	
	学校図書館メディアの構成	3・4前		2		○								兼1 隔年開講	
	学習指導と学校図書館	3・4前		2		○								兼1 隔年開講	
	読書と豊かな人間性	3・4前		2		○			1					隔年開講	
	情報メディアの活用	3・4後		2		○								兼1	
小計(27 科目)			0	0	53			3	1	1	0	0	兼6		
合計(331 科目)			27	495	68			15	17	15	1	0	兼105		

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(国際文理学部 国際教養学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手
学位又は称号		学士(国際教養)		学位又は学科の分野			文学関係、法学関係、経済学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>(卒業要件)以下の単位を含んで、124単位以上修得すること。</p> <p>◇学部共通科目:45単位以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ファーストイヤー・ゼミ:2単位必修 ○学術言語プログラム:15単位必修(日本語を母国語としない学生は、学術英語プログラムに代えて、学術日本語プログラムを履修することができる) ○外国語科目:4単位以上選択(いずれか1言語Ⅰ～Ⅳを含む。)日本語を母国語とする学生は、英語Ⅰ～Ⅳを履修しても卒業要件単位に含めない。外国人留学生が外国語科目を選択する場合は、母国語以外の言語を履修すること。 ○情報活用科目:2単位必修 ○日本文化理解科目:2単位以上選択(国際教養学科開講科目の「日本史概論」、「儒教思想史」、「書道Ⅰ(書道芸術)」、「美学美術史」からも選択することができる) ○共通基盤科目:20単位以上選択(総合科目:2単位以上選択、人文科学:2単位以上選択、社会科学:2単位以上選択、自然科学:6単位以上選択) <p>◇学部共通専門科目:6単位以上</p> <p>◇学科科目:60単位以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学科基本科目:10単位以上選択 ○専門科目:42単位以上選択 <p>うち32単位以上は、「日本語文化科目」、「欧米言語文化科目」、「東アジア地域研究科目」、「国際関係科目」、「国際経済・マネジメント科目」のいずれか同一の科目区分からその指定された必修科目(注)6単位を含んで履修するものとする。ただし、「東アジア地域研究科目」にあつては、当該科目区分から28単位以上を含んだ上で「国際関係科目」、「国際経済・マネジメント科目」の科目区分の科目と合せて32単位とすることができる。</p> <p>(注) 科目区分から指定された必修科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本語文化科目」:「日本文化の科学的解析」、「日本語文化演習Ⅰ」、「日本語文化演習Ⅱ」 ・「欧米言語文化科目」:「科学と文学」、「欧米言語文化演習Ⅰ」、「欧米言語文化演習Ⅱ」 ・「東アジア地域研究科目」:「東アジアの環境」、「東アジア地域研究演習Ⅰ」、「東アジア地域研究演習Ⅱ」 ・「国際関係科目」:「国際紛争と数理学」、「国際関係演習Ⅰ」、「国際関係演習Ⅱ」 ・「国際経済・マネジメント科目」:「環境ビジネス」、「国際経済・マネジメント演習Ⅰ」、「国際経済・マネジメント演習Ⅱ」 <p>○卒業研究:8単位必修</p> <p>ただし、卒業研究は専門科目の「日本語文化科目」、「欧米言語文化科目」、「東アジア地域研究科目」、「国際関係科目」、「国際経済・マネジメント科目」うち、履修要件を満たした科目区分において行う。</p> <p>◇学部共通科目及び学部共通専門科目並びに他学科を含む学科科目(食・健康学科が指定する科目を除く)から選択履修:13単位以上</p> <p>※履修科目の登録の上限(年間):45単位(「教職科目」等を除く。なお、教授会が認めた場合には上限を超えて履修することができる。)</p>						1学年の学期区分			2 学期					
						1学期の授業期間			15 週					
						1時限の授業時間			90 分					

授 業 科 目 の 概 要				
(人文社会科学研究科言語文化専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	日本語文化コース	日本語教育特別研究	日本語教育研究の基礎となる学習者データ(能力別データ、母語別データ、横断的・縦断的データ)の採集方法とさまざまな分析の方法(コーパスとしてのデータの収集、インタビューによるデータの収集、観察によるデータの収集など)について学ぶ。複数の学習者データに接することで、自身の研究課題に最も適した学習者データを収集する方法、分析の方法を身につけることを目的とする。また、それを通して現在の日本語教育研究の背景にある言語観、言語習得観を読み取り、議論する。	
		音韻・表記特別研究	音韻・音声研究について、共時的・通時的な両面から、高度に専門的な知識を修得させるための講義。共時的な面からは、音韻論・音声学の理論と方法論とにふれ、通時的な面からは、韻書・韻図などの中国資料による中原音韻研究や悉曇研究などインド系の音韻資料による研究と日本語音韻論との関係などにふれる。また、日本語の音韻と結びついた表記などについての問題も講ずる。	
		日本語文法特別研究	複雑な敬語、ら抜きことば、方言語法といった、現代日本人にとって職場や地域社会のみならず国際的な言語交流の際にも重要となる日本語の使い方の諸問題について、日本語文法の歴史的な変遷をふまえて、新たな視点で見つめ直す。この講義では、古典文法の本質的な問題を踏まえつつ、中国語や欧米諸語との接触が日本語の言語体系にもたらした影響等を、幅広く実際の文法現象を取り上げながら解説する。これにより、文法規範的に沿って運用される日本語の史的変遷も明らかになる。	
		日本史特別研究	古代から近代にいたるまでの歴史のなかから、研究史上、重要と考えられるテーマをとりあげ、古文書や古記録などの文献史料にもとづきながらそのテーマについて検討する。あわせて、学説の整理、学説の批判的検討およびその問題点の抽出、関係史料の分析・解釈といった基本的な日本史研究法についてのさらなる習熟を目指す。	
		古典文学特別研究Ⅰ	上代文学について講義していく。日本文学の成立に大きくかかわった漢文学とその受容も視野に入れつつ、上代文学のありようを俯瞰する。各回テーマを絞り、具体的な作品を取り上げて丁寧に読み解きながら解説していく。漢詩の様式や文学史的な事柄についても適宜確認する。	
		古典文学特別研究Ⅱ	古典文学の諸作品を取り上げ、成立論・構想論・作者論など多方面からの分析を行っていく。特に和歌関係の資料・作品を中心に、研究史などを踏まえた上で、できる限り詳細な検討を試み、高い資料批判の力を培いたい。和歌だけでなく、物語・説話作品にも、その検討の対象を広げていき、古典文学への広い視野を持てるよう指導していく。また、作品形成の社会的・政治的な状況の把握、その状況の変化による文学形成の変化なども考慮しつつ、古典文学とは何かを絶えず学生に問いかける形で、講義を組み立てていく。	
		古典文学特別研究Ⅲ	日本の中世末～近世期の散文作品の文学的表現についての考察。特に、連歌や俳諧が韻文と散文の両方にもたらした、文芸の言語の発想や、創作の基盤となる美意識について考えていく。代表的な諸作品の例を顕彰しながら、出版等「本」を巡る文化のあり方、他の学芸分野や古典研究との関係、諸作家の動向、近世期の諸藩の交流がもたらした文化的影響など、この時代の文芸にみられる特質を探ることで、古典文学作品研究の基盤となる視点を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文社会科学研究科言語文化専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	日 本 言 語 文 化 コ ー ス	近・現代文学特別研究	「戦後文学」が「現代文学」へと姿を変える端境期としての1955年頃から65年頃くらいまで(「60年前後」)の文芸評論の展開および文化的背景を把握する。日本の近現代社会史において、1960年は戦後最大規模の大衆運動「日米安保闘争」が起こった象徴的な変革期であったことはよく知られている。また、物理的な建築や街の景観、業態構造や家族形態の変化、そしてテレビに代表される新たなメディア環境の拡大等が、表現の社会的・空間的条件を劇的に変化させたことは言うまでもない。その結果、政治面や社会面だけでなく、文学や芸術を支える思想史の観点からみても、「60年前後」は多種多様な〈世界を思考する仕方〉が新たに提案された時期である。その状況を整理することは、20世紀前半の文学と後半の「現代文学」との間で、いかなる性質転換が起こったのかを理解するための一助となるはずである	
		視覚文化特別研究	国家やジャンルという身元保証された枠組みを越えていく〈視覚性〉や〈媒介性〉に注目し、「日本近現代文学」に対する従来型の理解の刷新をはかる。同時に、現代の視覚文化批評を支える理論に対して「日本語文化」が果たしうる貢献の可能性を探る。ただし、文化史研究やカルチュラル・スタディーズ等、既成の学問分野による文学研究の吸収を企図するものではない。大衆社会現象と「高級」な言語芸術とを結び繋ぐメディアの〈質〉ともいべき技術知に焦点をおくことで、両者を共通の次元で分析する方法論を模索してみたい。なお、メディアは大まかに二面の相反する働き一国民国家の形成や戦争プロパガンダに預かる求心と結束の方向(映画、TV等)とグローバルな消費文化市場に乗せてコンテンツを越境させていく拡散の方向(アニメ、デジタル・ゲーム、ネット放送等)一を抱えるが、本授業では、新メディアがもたらす認識を旧文化の解釈に適用することに意義をみて、後者のポテンシャルを重視する。	
		日本学特別演習I	<p>高度な調査研究及び発表の方法を、身につけることができるように、各教員の専門を活かしたテーマや資料で、各々、半期の演習を展開する。</p> <p>(2 矢野 準/15回) 日本語学の文献資料を用いた調査研究法を会得させるための学生による調査発表形式の授業をおこなう。資料としては江戸時代のものを用いる。その一は、江戸時代の古今集の俗語による注釈書である本居宣長著『古今集遠鏡』と尾崎雅嘉著『古今集鄙言』を、調査資料として、中古語と江戸語とを比較対照することにより、多角的な視点からの分析をおこなう。</p> <p>(4 今井 明/15回) 古典文学を読むという現代的意義を問うことも重要であるが、ここでは日本文学の韻文作品・散文作品を取り上げて、その作品の成立時に沿った、復元的な読解ができる力を培う。「演習I」では散文作品「平家物語」を教材とする。</p> <p>(5 月野 文子/15回) 本演習では『万葉集』を扱っていくこととする。初回は講義形式だが、それ以降は、各回のテーマに沿って受講者が作品を選び、レジュメを作成して自分の解釈および考察の過程を発表する。題詞と左注の漢文体の表記にも焦点をあてて、そこから情報を分析する訓練も試みる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学研究科言語文化専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	日本語文化コース	<p>(8 坂本浩一／15回) 日本語を対象として、(1) 文献資料を利用する文献国語学的研究手法、(2) 言語地理学的データ(言語地図やグロットグラム調査資料等)を利用した言語地理学的研究手法の二者を組み合わせた研究手法を採用して、(A) 近現代語への史的変遷を中心とした通時的研究、(B) 現代語や他の時代言語に関する共時的研究を行う。その際、学生の国際的視野を広げるために、日本語を中核に据えながらも日本語がこれまでさまざまな影響を受けてきた諸外国語をも比較対照資料として重視した演習を行う。</p> <p>(9 大久保順子／15回) 日本の近世期の刊本又は写本の作品を原資料から解読し、整理した本文に注釈を加え、その内容(作品に描かれる事件展開・設定・構成など)についての考察を行う。テキストの成立の状況や本の形態、本文と挿絵や書入等との関係、作品の背景である歴史的・社会的・文化的状況、素材となった諸作品との関係を合わせて学び、当該作品の問題点の追究を行う。</p> <p>(13 坂口 周／15回) 近代俳句の祖・正岡子規の思想の全体像をとらえ、「日本近代文学」の形成に果たした役割を改めて検討する。日本新聞社に入社した1892年末から死を迎える1902年までの10年間は、子規の実質的な執筆活動期間である。本演習では、俳句そのものよりも、締切に追われながら病床で書き散らされた俳論、評論、随筆といった断片的な文章の分析を通して、その理論的主張の変遷を跡づけることに努める。その上で、子規の思考がいかに同時代の文芸に向き合いながら練り出され、また、後世の文学に大きな影響を与えていったのか、その歴史的広がり把握したい。</p>	
	日本語文化コース	<p>高度な調査研究及び発表の方法を、身につけることができるように、各教員の専門を活かしたテーマや資料で、各々、半期の演習を展開する。</p> <p>(2 矢野 準／15回) 日本語学の文献資料を用いた調査研究法を会得させるための学生に拠る調査発表形式の授業をおこなう。資料としては江戸時代のものを用いる。江戸の語の会話資料を調査文献として、現代語へつながる過去の日本語の実態把握を目指す。今回は、合巻『修紫田舎源氏』を資料として、言語的な面を解析しつつ、絵本としての側面から江戸の文化風俗についても言及する。</p> <p>(4 今井 明／15回) 古典文学を読むという現代的意義を問うことも重要であるが、ここでは日本文学の韻文作品・散文作品を取り上げて、その作品の成立時に沿った、復元的な読解ができる力を培う。「演習Ⅱ」では韻文作品「新古今和歌集」を教材とする。</p> <p>(5 月野 文子／15回) 本演習では主に漢詩文を扱う。初回と最終回は講義形式とするが、それ以外は演習。各回のテーマに沿って受講者がレジュメを作成して自己の解釈およびその考察の過程を発表する。適宜、輪読形式を取り入れることも予定している。</p> <p>(8 坂本浩一／15回) 日本語を対象として、(1) 文献資料を利用する文献国語学的研究手法、(2) 言語地理学的データ(言語地図やグロットグラム調査資料等)を利用した言語地理学的研究手法の二者を組み合わせた研究手法を採用して、(A) 近現代語への史的変遷を中心とした通時的研究、(B) 現代語や他の時代言語に関する共時的研究を行う。その際、学生の国際的視野を広げるために、日本語を中核に据えながらも日本語がこれまでさまざまな影響を受けてきた諸外国語をも比較対照資料として重視した演習を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学専攻言語文化専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	日本語文化コース	<p>(9 大久保順子／15回)</p> <p>日本の近世期の文学に関する重要な理念や創作方法の問題をテーマとして掲げ、その意味と意義を探る。テーマに関連する作品(韻文・散文)を取り上げ、その作者の考え方や文化・思潮の流派等との関係を踏まえた諸資料の調査を行い、考察を深めていく。</p> <p>(13 坂口 周／15回)</p> <p>「大正的想像力としての夢」をテーマに設定して、内田百閒の文学テキストを読み解く。処女短編集『冥途』は、芥川龍之介が「漱石先生の『夢十夜』のやうに、夢に仮託した話ではない。見た儘に書いた夢の話である」と述べ、同じく友人の森田草平が「読者のついて行きにくい世界」と約言したように、生半可な解釈を受け付けられない難しさがある。反面、伊藤整が「〔漱石に比して〕百閒の方がより現代的である」と評したように、漱石を乗り越えるような前衛的な地点に到達していたという意味において、百閒の文学史的な再評価が求められる。本演習では、よりリアリズムに近づいた昭和年代発表の作品や、百閒の文才を世に知らしめた随筆もあわせて分析対象とし、百閒独特の世界観を解明する。</p>	
		<p>日本史研究にとって必須の史料読解力・研究能力を練磨する。研究史が注目してきた重要史料の精読とあわせて、その史料をもとに先行研究が提示してきた見解についても批判的に検討する。くわえて、報告・討論の方法についても学ぶ。</p>	
		<p>日本史研究にとって必須の史料読解力・研究能力を練磨する。研究史が注目してきた重要史料の精読とあわせて、その史料をもとに先行研究が提示してきた見解についても批判的に検討する。くわえて、報告・討論の方法についてもさらなる習熟を目指す。</p>	
		<p>海外の大学で、現地の大学生を対象に日本語教育の実習を行い、実践的な日本語教育能力を養う。事前指導では、授業観察を交えながら、教案作成や学習者のニーズに合った教材・タスクの作成方法、具体的な指導方法など日本語を教えるための基本的な技術を学ぶ。実習では、作成した指導案、教材等をもとに、実際に教壇に立ち日本語指導を行う。事後指導では、実習の反省をもとに受講生どうして議論を深め、個人の指導技術の課題、また日本語教育全体における課題を明らかにする。</p>	
		<p>作品の原典解読と分析の能力を養い、「国語」の深い読解力を深め、研究方法を実践的に修得することを目標とし、3名の教員によるオムニバス形式によって、漢詩・和歌・俳諧といった韻文資料を解読し、注釈を加え、その内容についての考究を行う。伝本や版行の状況など、作品の背景としての歴史的・社会的・文化的な問題を併せて考察し、理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 今井 明／5回)</p> <p>定家の日記「明月記」と「新古今集」とを資料とし、「原典」復元への方法と態度を身につかせつつ、「原典」とは何かを理解させながら、読み解いていく。</p> <p>(5 月野 文子／5回)</p> <p>奈良時代及び平安時代の詩序と詩を読むことにより、訓読の技法や漢詩への理解を深めていく。</p> <p>(9 大久保順子／5回)</p> <p>俳諧と俳文を資料とし、その成立状況や本の形態、作品の背景としての諸状況、素材となった諸作品との関係、関連の論考などを合わせて学びながら読み解いていく。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(人文社会科学研究科言語文化専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	日本語文化コース	<p>作品の原典解読と分析の能力を養い、「国語」の深い読解力を深め、研究方法を実践的に修得することを目標とし、3名の教員によるオムニバス形式によって、和文系散文・漢文系文献・近代辞書など解読し、語学的な観点も加え、その内容についての考究を行う。伝本の状況、作品の背景としての歴史的・社会的・文化的な問題を併せて考察し、理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 矢野 準 /5回) 「国語」教材としても取り上げられる『土佐日記』を原典資料として、異本の比較をしつつ、解釈・注釈を行うとともに、文法や表記といった語学的側面にも目を配っていく。</p> <p>(8 坂本 浩一 /5回) 「国語」における文法教授の基盤ともなる文法書資料類を講読する。特に現代文法の基盤形成期にあたる明治～昭和期の文法書資料を対象として解釈・注釈を行うとともに、文法領域を中心とした探究を行う。</p> <p>(15 渡邊 俊 /5回) 変体漢文を資料として、訓読と読解を行うが、できる限り音読にも気を配る。また、討論の機会を設け、理解を深める。</p>	オムニバス方式	
		日本語学特別講義	<p>テーマ「現代日本語の文法」</p> <p>主に、格、副詞的修飾、テンスを取り上げる。それぞれの分野について基礎的な知識を整理した後、従来の研究ではどのようなことが論点となり、どのような議論が展開されてきたのかを、関連する論文を読みながら見ていく。</p>	隔年
		漢文学特別講義	<p>テーマ「『詠史詩』を知る」</p> <p>日本の漢文学にも大きな影響を与えた胡曾『詠史詩』について、その二系統の注釈である陳蓋注と胡元質注を比較検討し、それぞれの注釈の意図するところについて考察する。</p>	隔年
		国文学特別講義	<p>テーマ「平安朝文学と詩経毛伝の文学観」</p> <p>源氏物語・古今集等の享受史・研究史を通して我が国における文学観の流れをたどる。特に儒教的文学観(毛伝的文学観)と我が国の古典文学享受との関連の中から、各時代の人々が古典文学を読む意義をどのように考えていたかを明らかにする。</p>	隔年
	英語圏言語文化コース	英語圏文学と文化特別研究 I	<p>(1 スコット・ピュー /15回)</p> <p>この演習では、フィクションと映画における「ナラティブ」(narrative)について考察し、理解を深める。分析に用いる事例は、参加者の特定の関心に応じて変更することもあるが、各授業では、アメリカの古典的ディストピア映画である Bladerunner の視聴と議論から始める。その後、この映画の基となっている小説 Do Androids Dream of Electric Sheep? を詳細に分析する。小説と映画の類似点や相違点について、特に、テクノロジーと暴力の影響、社会統制、監視、プライバシー侵害、非人間的社会におけるジェンダー関係などの重要なモチーフに関して検証していく。授業の後半では、The Cambridge Introduction to Narrative, Film Art, “A Cyborg Manifesto” などの著作で使われる文学理論、文化理論から選択した概念を概観する。</p> <p>また、この授業は英語で行われ、上級レベルのスピーキングとライティングを使う実践的な経験を積むことができ、国際的な環境で通用するコミュニケーション・スキルを熟達させることを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文社会科学研究科言語文化専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	英 語 圏 言 語 文 化 コ ー ス	英語圏文学と文化特別研究 I	(7 徳永 紀美子/15回) アメリカ文化・文学の特徴の一つとして、文学作品における「孤児(状態)」というテーマを扱う。植民地時代に始まるアメリカへの入植者とその後の移民たちを、メタファーとしての「孤児」(積極的に孤児状態を選んだ場合を含む)と見ることで、作品そのものの特質はもちろんのこと、更には様々なアメリカの文化的特性も探る。同時に、使用する文学作品の精読を通して分析的な読みを実践する。	
		英語圏文学と文化特別研究 II	オーストラリアの現代作家、ピーター・ケアリーの作品 Jack Maggs (1997) を研究する。本作はディケンズの Great Expectations (1861) の「書き直し」と見なされる作品であり、ディケンズ作品における英国の階級の問題をさらに広げ、流刑囚を主人公とすることで、より貧しい階級の視点を取り入れ、英国とオーストラリアの関係までを射程に入れ、さらにディケンズ自身を思わせる作家を登場人物に導入することで、中流下層階級から上昇しようとする者の社会的状況や心理も考察している。	
		英語圏文学と歴史特別研究 I	(1 スコット・ピュー/15回) この授業では、フィクションと映画における「ナラティブ」と歴史について考察し理解を深める。分析に用いる事例は、参加者の特定の関心に応じて変更することもあるが、各授業は、古典的アメリカ映画である <i>East of Eden</i> の視聴と議論から始める。その後、映画の基になっている同名小説について詳細に分析し、小説と映画の類似点や相違点について、特に、歴史に応じて変化する家族関係の影響、暴力、宗教的道德観、アメリカの西部開拓、そして、近代社会におけるジェンダー関係などの重要なモチーフに関して考察する。授業の後半には、 <i>Narration in the Fiction Film</i> や <i>The Machine in the Garden</i> などの著作に使われる文学理論、文化理論から選択した概念を概観する。 また、この授業は英語で行われ、上級レベルのスピーキングとライティングを使う実践的な経験を積むことができ、国際的な環境で通用するコミュニケーション・スキルを熟達させることを目指す。	
		英語圏文学と歴史特別研究 II	(7 徳永 紀美子/15回) アメリカ文学において1980年代に書かれた「女性と戦争」に関わる物語、具体的には、第2次世界大戦とベトナム戦争を題材としたテクストを通して、女性と戦争の関わり、特に母性はどのように描かれ、政治や歴史とどのような関係にあるのかを考える。	
		英語圏文学と歴史特別研究 II	今年度は Franco Moretti, <i>The Way of the World: The Bildungsroman in European Culture</i> を講読し、ビルドゥングスroman(成長小説)という形式について考察する。モレッティによれば、ビルドゥングスromanは19世紀に都市化、産業社会化が進み、資本主義体制が進むにつれて変化してきている。共同体と個人が分断され、個人の疎外が進み、個人が社会に順応、調和して幸福な結末を迎えるという形がフィクションとしても不可能になった時、このジャンルは終焉した。この授業ではそうした文学と歴史の不可避の関連について受講生と考えていきたい。	
		英語と文化特別研究 I	英語の形成に影響を与えた歴史的・文化的背景を把握し、それらを記述した古英語文献、あるいはその時代の英語の実態を伝える作品を読む。古英語が書き継がれた13世紀までの各時代について歴史的・文化的状況を理解した上で、英語の諸相(語彙、文法、文体、スペリング、句読法など)とその変化を読み取る。	
英語と文化特別研究 II	後期中英語から初期近代英語期を対象とする本授業では、英語の語彙、文法、文体、綴りと正書法の観点から、標準英語と文学言語が形成されてゆく過程を、社会文化的現象と関係づけながら理解する。特に、写本から活版印刷に変化する出版メディアの変化が言語文化にいかなる影響を与えたかを観察する。			

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学研究科言語文化専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	英語と歴史特別研究I	古英語の文法を系統的に学ぶ。形態論については、名詞・形容詞・副詞・動詞の語形変化を、関連する音韻法則や音韻変化を踏まえながら学ぶ。統語論については、語順、文・節の構造と接続詞の用法、名詞の格の用法および格と前置詞の使用との関係、動詞の時制・相・法と迂言的表現などについて、語形変化の水平化・消失の問題と関連づけながら理解する。	
	英語と歴史特別研究II	言語の変化は、社会文化的要因と密接なつながりを持つ。本特別研究では、基本的な文献と主要作品をもとに、主に後期中英語と近代英語期における文化現象と同時代に生じた英語の変化を観察する。併せて、いかなる問題が今なお研究課題として残っているかを、研究史を俯瞰しながら考える。	
	英語圏文学・言語とジェンダー特別演習	(1 スコット・ピュー／15回) 授業は3部構成とする。 第1部では、ガートルード・スタイン、ドロシー・パーカー、シルヴィア・プラス、エイドリアン・リッチ、そして(時間が許せば)他の詩人についても、あえて「女性として」書こうとした先端的な女性の例として紹介する。これらの作家の作品群の中に、ジェンダー、言語、文化が重なる、示唆に富んだ関係を見出す。時間があれば、詩のみならず批評論文についても読解や議論を行う。 第2部では、母性研究において画期的な論考となり、今でも参照されるエイドリアン・リッチの Of Woman Born: Motherhood as Experience and Institution から特に重要と思われる章を精読し、その他の母性研究や文学の分析に繋げる。 第3部では、前半に19世紀英国を代表する作品の一つ Jane Eyre を、家長長的なヴィクトリア朝時代にあって女性の自立をテーマとする先駆的作品として取り上げる。後半ではその Jane Eyre を土台として敵役である植民地出身の女性を主人公に書き直した現代小説 Wide Sargasso Sea を読み、ポストコロニアルな点からさらに読みを深める。 (6 ニコラス・ウォレン／15回) 授業を大きく次の3つに区分し、各観点から言語とジェンダーの問題に迫る。 第1-5回においては、英語の語彙に見られるジェンダーの問題を概観した後、いくつかの語句を事例として取り上げ、ジェンダーの観点から、それらの語句が英語辞書でどのように扱われているかを確認し、また言語資料(コーパス)を用いての実態調査を行い、ジェンダー・バイアスがどのように英語に存在しているかを学ぶ。 第6-10回においては、英語と日本語における曖昧表現(Hedge)をテーマに掲げて、男女の言語使用の特徴を観察する。 第11-15回においては、言語使用における男女差(女性の方がいわゆる「正しい」言葉づかいをする傾向があるとされること)とそれを生み出す社会的要因や歴史的背景について先行研究をもとに考える。	
	西欧文化史特別研究	西ヨーロッパ近代の文化史にまつわる、さまざまな研究手法を、実際の研究成果を参照しながら学ぶ授業。具体的には、英語圏の文化史研究に広がりや奥行きを与えるべく、西欧文化史分野で大きな成果を生み出し続けてきたフランスの歴史家たちの書物をひもとき、西欧文化の歴史(言語、宗教、生活)にかんする知識を身につけると同時に、それを研究する視野や方法を身につけることを目指す。文化と言語のつながりを思えば、フランス語文献を多く利用することは不可欠であり、それを正確に読み進めることで研究に必要な語学力を養成することも大きな狙いとなる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文社会科学研究科言語文化専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	英語圏言語文化コース	英語圏言語文化文献講読Ⅰ	<p>(7 徳永 紀美子/15回) American Cultural Studies: An Introduction (Campbell & Kean) を使用し、アメリカの建国の特殊性に始まり、アメリカがいかにして文化を築いてきたかを見ていく。それによってアメリカの歴史、政治、社会、文化への理解を深め、特に文学や映像メディアによる表現を文化研究的に分析、研究する方法論と知識を養う。</p> <p>(10 宮川 美佐子/15回) 高度な内容を持つ英語文献の読解力を伸ばし、研究に必要な知識の獲得・再確認を行う。研究に直結すると思われる言語・文学・文化に関する英語文献を演習形式で読むことで、英語によって思考、研究する訓練を行う。本年度は、概論的な小説研究の中でもロングセラーであり、平易で明快な内容で知られる Jeremy Hawthorn, <i>Studying the Novel</i> を講読し、同書の内容を理解するとともに提起されている問題を考える。</p>	
		英語圏言語文化文献講読Ⅱ	<p>(1 スコット・ピュー/15回) この授業では、「ナラティブ・フィルム」について考察を行い、理解を深める。分析に用いる事例は、参加者の特定の関心に応じて変更することもあるが、各授業では、アメリカ古典映画である <i>North by Northwest</i> について読解と議論から始める。特に、作品における戦後アメリカのパラノイア(被害妄想)、外国人恐怖症、文化的傲慢などの重要なモチーフに関して詳細に分析を行う。授業の後半では、<i>How to Read a Film</i> や <i>Story and Discourse: Narrative Structure in Fiction and Film</i> などの古典的著作で使われる文学的、文化的理論から選択した概念について概観する。 また、この授業は英語で行われ、上級レベルのスピーキングとライティングを使う実践的な経験を積むことができ、国際的な環境で通用するコミュニケーション・スキルを熟達させることを目指す。</p> <p>(7 徳永 紀美子/15回) ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティの観点から文学において身体と病の表象はいかになされているかを <i>The Gifts of the Body</i> を通して見ていく。その後 <i>Illness as Metaphor and Aids and Its Metaphors</i> の特に関わりのある数章を参考文献として読み、作品への応用を試みる。</p> <p>(10 宮川 美佐子/15回) 今年度は、Malcolm Bradbury が編集したイギリスの短編小説のアンソロジーを読む。高度なモダニズムの技巧を用いたラウリー、英国の伝統的リアリズムを体現するブリチェット、フェミニズムの視点を備えたリースやレッシングなど、多様な作品に触れ、それらが文学研究的にどのように読まれるか、クラスで討論することで理解を深めたい。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文社会科学研究科言語文化専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	英 語 圏 言 語 文 化 コ ー ス	英語圏言語文化文献講読Ⅲ	<p>(3 向井 剛／15回) 中英語期 (Middle English) の言語分析及び文学作品を読解する力を養う。具体的には、当代を代表するジェフリー・チョーサーの作品を読むことを通して、中英語の語彙、文法、文体に慣れ、併せて中英語期の研究の方法を学ぶ。</p> <p>(6 ニコラス・ウォレン／15回) Vance E. Johnson, <i>The World of Words: Understanding and Using Vocabulary</i> から、以下の事項 (授業計画に記載) を扱った章を講読する。英語語彙の諸相、語の様々な機能を学び、語の効果的な運用法を考えるとともに、様々な語法の分類・分析方法を学ぶ。</p> <p>(11 村長 祥子／15回) The Cambridge History of the English Language シリーズの第1巻より、古英語の統語論に関する章 (第4章) を精読する。古英語の文法構造を句・節・文の単位で分析する方法やその際の問題点を学ぶ。(Elizabeth Traugott, 'Syntax', Richard Hogg, ed. <i>The Cambridge History of the English Language: Volume I The Beginning to 1066</i>, Cambridge UP, 1992)</p>	
		英語圏言語文化文献講読Ⅳ	<p>(6 ニコラス・ウォレン／15回) 英語の語源を論じた研究書を読み、その内容について議論する。英語本来の語、世界の様々な言語からの借用による語、異分析や民間語源、派生等の言語変化により生じた語など、英語語彙を構成する様々な要素を分類して英語語彙の体系を理解するとともに、具体的な事例を取り上げ、語の語源や成り立ちを観察する。英語の語彙が世界の様々な言語・文化と結びついて形成された歴史を学び、さらに具体的な例を取り上げながら、語源研究の方法を学ぶ。</p> <p>(11 村長 祥子／15回) 古英語の言語分析及び作品を読解する力を養う。具体的には古英語で書かれた聖女伝 <i>The Old English Life of Saint Mary of Egypt</i> を精読する。授業での議論をもとに、語彙、文法、文体などについてテーマを一つ定め、レポートを作成する。これにより文献学研究の方法を学ぶ。</p>	
		第二言語習得概論	<p>日本語学習者と英語学習者を対象とした第二言語習得について、現在の捉え方や研究成果、問題点を学ぶ。第二言語教育の具体的な事例と自分自身や周囲の人の外国語学習の経験を踏まえて、先行研究や理論を今後の日本語教育、英語教育にどう生かしていくべきかを考える。まず、教科書や研究論文を読みながら、第二言語習得論の全体像をつかみ、その後、各トピックについて、グループディスカッションを行う。学生はそれぞれのトピックに関連した研究論文を読んだ上で、その内容について質問、コメント、問題点、論文の貢献度などを考え、準備する。授業では、小グループに分かれディスカッションを行い、その後グループ代表によるパネルディスカッションへと移る。第二言語習得を、第一言語習得、バイリンガリズムといった多方面からの研究と比較したり、国内外の諸相を知ることにより、グローバルな視点と言語教育能力を養う。また、興味があるテーマについて、その先行研究を紹介し、論点や自分の意見をまとめたプレゼンテーションも行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学研究科言語文化専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
英語圏 言語文化 コース	英語圏言語文化特別講義I	授業のテーマは大英帝国に関連するコロニアリズム、ポストコロニアル理論と出現した多国籍文化である。最初の部分では植民者の視点からの経験と元の文化の拒絶などの植民主義への批判を勉強する。第二の部分では植民地に暮らす著者の反応と反発意識の表現方法を見る。第三の部分では元植民地の人らがどうやって現代の英国にとって重要な文化と政治の要素になり、多国籍文化の発展に貢献したかを検討する。ディスカッションでは英国の経験がヨーロッパ、米国、日本でも経験されており、人や情報、投資などは国境を越えて行われていることから、愛国主義者の意向とは裏腹に民族文化の存在に疑問を呈する。	
	英語圏言語文化特別講義II	授業では欧米やアジアがもたらした米国人、英国人、フランス人とドイツ人への影響を熟考しながら、英米モダニズムの充進にとって大切なテーマを検討する。授業ではフランスと英国の唯美主義を考慮した上で、人工崇拜、芸術のための芸術、ロマン主義の拒絶とモダニストの伝統と神話に対する強調を見る。授業はT. E. Hulmeの理論、ビザンチンアートの理想化、第一世界大戦、西部の下降、沈滞と無活動のテーマに着目する。	
専門 科目	英語圏言語文化特別講義III	この講義では、British National Corpus (BNC), Corpus of Contemporary American English (COCA), Corpus of Historical American English (COHA)などの汎用コーパスの検索、データの分析を通して、英語の諸相(語彙、文法、意味、通時的变化、共時的変異、ジェンダー)について考察する。 英語コーパス言語学に関する基本的な事項、講義で使用するコーパスの概要を説明した後、受講者がコンピュータに向かって実際にコーパスを検索する実習形式で進める。講義の後半(第11回目以降)では、各受講者が研究テーマを設定して集中的にコーパスの分析、観察を進めるとともに、各自が遭遇した問題点等について全員でディスカッションを行う。最終回に研究成果報告会を設定する。	隔年
	共通	比較文学研究I	この授業は、村上春樹の作品(英語翻訳作品)に焦点を当てながら、他の様々なフィクションとの比較研究を行う。分析に用いる事例は、参加者の特定の関心に応じて変更することもあるが、村上春樹の『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』の読解と議論を行う。特に、作品における現実と幻想、トラウマ、家族関係の崩壊、暴力、セクシュアリティ、そして戦後の日本社会などのいくつかの重要なモチーフに関して詳細に分析を行うが、とりわけ、アメリカやヨーロッパのフィクション、映画、音楽など、この作品がどのように幅広い文学的、文化的作品に言及し、あるいはそこから流用しているかについて重点的に検証していく。授業の議論では、文学理論、文化理論、特に、ポスト・モダン理論から選択した概念や、村上春樹のインタビューも取り扱う。 また、この授業は主に英語で行う。上級レベルのスピーキングとライティングを使う実践的な経験を積むことができ、国際的な環境で通用するコミュニケーション・スキルを熟達させることを目指す。(ただし、日本語テキストへの言及もある。)
比較文学研究II		日本の文学活動の目的と意義を、作品を読み解きながら探っていく。漢詩の制作が中国のそれに倣っていることは言うまでもないが、和歌文学の世界にも漢詩の理念や方法論が大きく影響を及ぼし、また、小説の世界においては翻案も少なくなかったことを認識し、日本文学の研究には不可欠な比較文学的手法を学ぶ。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(人文社会科学研究科言語文化専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	共通	世界の中の日本伝統文化	<p>この授業は日本伝統文化を国際の文脈の中で追究する。比較的看過されがちな伝統文化が外国で注目を浴びることがある。ジャポニズム等を一例として、日本伝統文化は国際文化交流で重要な位置を占めている。</p> <p>この授業では、主として伝統演劇である「能楽」と「歌舞伎」を考える。性質が異なる二つの演劇は日本の代表的な演劇であり、世界無形文化遺産に認められている。</p> <p>授業では、この演劇の国際化の中の変化を調べ、外国から受けた影響とその影響の働き方を見、そして外国の芸能への影響を考察する。そのために外国人による日本演劇の見聞録を調べ、外国の研究者の日本演劇の解釈を読み、上演時の外国メディアの反応を分析する。また、能楽や歌舞伎の英訳を読み、日本語の原本と比較する。演劇の組立、雰囲気、演出方法など様々な影響を考える。日本の伝統演劇は世界の演劇にどのような影響を及ぼしたか、芸能分野における世界的交流を探る。</p>	
		漢字文化圏の比較文化史研究	<p>本講義では、漢字文化圏の制度や習俗習慣に関する問題を取り上げ、日本を相対的に捉える視点を養う。</p> <p>中国古代の「律令」と「儒教」が漢字文化圏全体に大きく影響を及ぼしたことを文献等によって確認しながら、婚姻制度と「孝」の概念がどのように浸透したかを探っていく。また、オムニバスによる講義形式を基本とするが、文献を使用する際には一部に輪読形式を取り入れる。最終回には留学生を招いて受講者と「結婚観」と「孝行」について討論させることを予定している。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 月野 文子/4回) 古代における「律令」と「儒教」の観点から、漢字文化圏の地域的広がりを確認し、婚姻制度の有り様まで論を進める。</p> <p>(15 渡邊 俊 /3回) 中古・中世期の法と婚姻との関連から、相続の有り様など当時の実態を示した上で、「家」制度にまで考察を及ぼす。</p> <p>(16 武 継平/3回) 近世・近代の「儒教」倫理と婚姻制度の問題を、日本と中国とを対照しながら、現代への影響に至るまで分析を及ぼす。</p> <p>(17 岡 克彦/3回) 現代における婚姻制度と「孝」の概念に関して、韓国での有り様を中心に日本との対照を行い、女性の地位について考える。</p> <p>(担当全教員/2回) 第1回目の導入。第15回目の討論。</p>	オムニバス方式
	書物と印刷	<p>東西の印刷文化の発達と書籍の実態を、相互比較しつつ講じる。受講者の理解を深めるために、二名の教員による共同講義を行う。西洋(主にイギリス)と日本における書誌学の発達を概観し、実際に書物の観察・記述を行う。また、現存写本や刊本が本文校訂を経て、定本として現代読者に届くプロセスを辿ることにより、テキストを批判的に捉える姿勢を養う。</p>	共同	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学研究科言語文化専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	共 通	総合演習 I	事前事後指導的なものを別にして、集中講義的に年3回発表の場を設け、院生どうしに発表を行なわせる。そこでは、理論の妥当性、収集データの適否、論の是非などについて、主に、受講院生間の討議で、研究の質的向上を図る。研究指導教員は討議の方向性を導く形で院生の研究能力の向上に資す。
		総合演習 II	総合演習 I で培った研究能力をもとにした研究発表の場を、集中講義的に年3回設ける。そこでは、院生のみならず研究指導教員が、高次の専門的視点や異なる観点から、論の独自性や妥当性を検証する。
基 本 科 目		研究の倫理と方法	研究活動とその成果である論文の適切な有り方が、国際的にも厳しく問われている。修士研究に取り組むにあたって、遵守すべき研究の倫理とはなにか、また研究論文が満たすべき内容とそのための論文の作成の有り方について検討する。
		歴史と社会	近世の都市の例として近世の京都を挙げる。近世の京都が幕府直支配三つの一つであった。新興都市江戸と大坂と違って、長い伝統を踏まえて、近世都市に発展した。近世の文化の一つの中心地でもあった。幕府の所司代、町奉行、京都代官、二条定番の幕府諸役ほかの朝廷、諸宗派の本山、諸藩の屋敷、御用達の商人などの複数の勢力が存在した。近世都市であった京都を詳しく見たうえ、ドイツを中心にして、ヨーロッパの近世都市を見て、近世の京都との共通点・相違点を探る。終わりに、日本とヨーロッパでの近世の要素の衰退、近代的な要素の増加を追究する。
		グローバル社会と英語	世界の様々な英語について、文化と言語との関わりに注目しながら学ぶ。英国、米国およびその他の英語圏の英語と、カリブ地域、アフリカ、アジア、さらにインターネット文化のなかで新しく登場した語彙にも注目し、英語の文化的・言語的な多層性を理解する。
		アカデミックライティング・プレゼンテーション	簡単なリサーチを行い、論文を書く過程を学ぶ。 ライティングでは、構成力と書く技術の2点に焦点を当てる。MLA・APAなどの様式を使い、論文の各パーツの機能と構成を、実際のライティングを通して学ぶ。また説得力のある文章を書くために、論理的な構成、全体のまとめなど注目し書く練習をする。 プレゼンテーションでは、構成、口語と文語の違いなどに注意して、より説得力があり、わかりやすいプレゼンテーションとは何かを、実際のプレゼンテーションを通して学ぶ。
		人文社会統計学	本講義では人文・社会科学分野で必要となる統計解析手法について解説する。はじめに統計学および標本調査の基本事項を確認する。その後、人文・社会科学分野の学術論文で多く見られる、線形回帰モデルやロジスティック回帰モデルを実際の学術論文で取り上げられたデータに適用した例を用いて解説する。さらに、これらのモデルを一般化した一般化線形モデルについて紹介する。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学研究科言語文化専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本 科目	国際研究活動	<p>国外の大学、研究機関、企業などが主催する専門領域に関連したプロジェクト、就業体験等への参加や、国外での調査・研究活動等とその成果を単位として認定する。海外での活動を通して、自らの研究を国際的な視野で位置づけ、あるいは拡張・深化するだけでなく、自らの国際性、コミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>なお、単位としての認定を受けるためには、指導教員および研究科長による研究計画の事前承認が必要であり、海外での研究活動（実働5日以上）に加え、担当教員による事前および事後の講義（7コマ）を受講する必要がある。</p>	講義 7回 実習 5日
研究 指導 科目	修士特別研究	<p>(1 Pugh, Charles Scott) 修士特別研究では、学生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知の創造とともに、その過程の中で現象に潜む社会・文化的な構造を探り当て、それを論理的に説明する能力を育成する。言語や文化の歴史・社会的な意味合いや変容に関する研究課題を設定し、その課題解明のための方法論を身につけ、文献の収集を行いながら、解読と解釈、確かな根拠に基づく論証ができるように指導する。 研究指導では、アメリカ文学・文化の分野、とりわけアメリカ現代小説や映画を分析し、修士論文作成に向けた指導を行う。</p> <p>(2 矢野 準) 修士特別研究では、学生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知の創造とともに、その過程の中で現象に潜む社会・文化的な構造を探り当て、それを論理的に説明する能力を育成する。言語や文化の歴史・社会的な意味合いや変容に関する研究課題を設定し、その課題解明のための方法論を身につけ、文献の収集を行いながら、解読と解釈、確かな根拠に基づく論証ができるように指導する。 研究指導では、日本語の音韻・表記に関する研究分野の修士論文作成に向けた指導を行う。</p> <p>(3 向井 剛) 修士特別研究では、学生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知の創造とともに、その過程の中で現象に潜む社会・文化的な構造を探り当て、それを論理的に説明する能力を育成する。言語や文化の歴史・社会的な意味合いや変容に関する研究課題を設定し、その課題解明のための方法論を身につけ、文献の収集を行いながら、解読と解釈、確かな根拠に基づく論証ができるように指導する。 研究指導では、中世イギリス文学・文化、とりわけアーサー王物語、初期印刷本研究の分野で修士論文作成に向けた指導を行う。</p> <p>(4 今井 明) 修士特別研究では、学生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知の創造とともに、その過程の中で現象に潜む社会・文化的な構造を探り当て、それを論理的に説明する能力を育成する。言語や文化の歴史・社会的な意味合いや変容に関する研究課題を設定し、その課題解明のための方法論を身につけ、文献の収集を行いながら、解読と解釈、確かな根拠に基づく論証ができるように指導する。 研究指導では、日本の中世文学に関する研究分野の修士論文作成に向けた指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学研究科言語文化専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	修士特別研究	<p>(5 月野 文子) 修士特別研究では、学生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知の創造とともに、その過程の中で現象に潜む社会・文化的な構造を探り当て、それを論理的に説明する能力を育成する。言語や文化の歴史・社会的な意味合いや変容に関する研究課題を設定し、その課題解明のための方法論を身につけ、文献の収集を行いながら、解読と解釈、確かな根拠に基づく論証ができるように指導する。 研究指導では、上代漢字文化圏に関する研究分野の修士論文作成に向けた指導を行う。</p> <p>(6 徳永 紀美子) 修士特別研究では、学生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知の創造とともに、その過程の中で現象に潜む社会・文化的な構造を探り当て、それを論理的に説明する能力を育成する。言語や文化の歴史・社会的な意味合いや変容に関する研究課題を設定し、その課題解明のための方法論を身につけ、文献の収集を行いながら、解読と解釈、確かな根拠に基づく論証ができるように指導する。 研究指導では、アメリカ文学・文化の分野、とりわけアメリカ現代小説や女性を含むマイノリティ・グループの作品について修士論文作成に向けた指導を行う。</p> <p>(7 Warren, Nicholas William) 修士特別研究では、学生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知の創造とともに、その過程の中で現象に潜む社会・文化的な構造を探り当て、それを論理的に説明する能力を育成する。言語や文化の歴史・社会的な意味合いや変容に関する研究課題を設定し、その課題解明のための方法論を身につけ、文献の収集を行いながら、解読と解釈、確かな根拠に基づく論証ができるように指導する。 研究指導では、英語学、とりわけ語彙論、辞書編纂分野の修士論文作成に向けた指導を行う。</p> <p>(8 坂本 浩一) 修士特別研究では、学生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知の創造とともに、その過程の中で現象に潜む社会・文化的な構造を探り当て、それを論理的に説明する能力を育成する。言語や文化の歴史・社会的な意味合いや変容に関する研究課題を設定し、その課題解明のための方法論を身につけ、文献の収集を行いながら、解読と解釈、確かな根拠に基づく論証ができるように指導する。 研究指導では、日本語の話し言葉や言葉使いに関する研究分野の修士論文作成に向けた指導を行う。</p> <p>(10 大久保 順子) 修士特別研究では、学生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知の創造とともに、その過程の中で現象に潜む社会・文化的な構造を探り当て、それを論理的に説明する能力を育成する。言語や文化の歴史・社会的な意味合いや変容に関する研究課題を設定し、その課題解明のための方法論を身につけ、文献の収集を行いながら、解読と解釈、確かな根拠に基づく論証ができるように指導する。 研究指導では、近世文学に関する研究分野の修士論文作成に向けた指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学研究科言語文化専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	修士特別研究	(11 宮川 美佐子) 修士特別研究では、学生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知の創造とともに、その過程の中で現象に潜む社会・文化的な構造を探り当て、それを論理的に説明する能力を育成する。言語や文化の歴史・社会的な意味合いや変容に関する研究課題を設定し、その課題解明のための方法論を身につけ、文献の収集を行いながら、解読と解釈、確かな根拠に基づく論証ができるように指導する。 研究指導では、イギリス文学の分野、とりわけ19世紀から現代に到る小説研究分野の修士論文作成に向けた指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学部社会科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際産業社会コース 専門科目	産業社会解釈特別研究	本授業科目では、女性が国際社会で活躍するために必要な「産業社会を見る目」を養うことを目的とする。歴史概念と学問概念が変化したヘーゲル以降において、「認識」ということを通じて歴史的なものに到達することは可能かという問題が発生した。そこで、文化や社会はどうすれば理解されることができるのかという「解釈学的問題」について、本授業科目では、シュネーデルバッハの論考をもとに、シュライアーマッハー、ドロイゼン、ディルタイ、ハイデガー、フッサール、ハルトマンなどの立場を考察し、産業社会を適切に理解するための解釈技法について研究する。この研究を行うことによって、女性の視点から今後の国際産業社会を構想するための一つの基盤が得られることが期待される。	
	東アジア人口論特別研究	経済人口学視点より人口変動が経済社会の発展と変化に及ぼす影響を分析し、東アジアの人口変動と経済社会の持続的発展について学ぶ。具体的には人口変動、出生率、人口政策、少子高齢化等について理論的考察を行ない、人口の諸要因が経済社会の変化と発展に及ぼす影響(人口効果)、または経済社会の諸要因が人口変動に与える影響(経済効果)を分析する。そして、東アジアに研究の焦点を当て、現在急速に進んでいる東アジアの少子高齢化について、その現状と原因、経済社会への影響を分析し、少子高齢化社会のあり方を探ることにより、東アジアの経済社会と人口の持続的発展に資する対策を模索する。	
	マクロ経済学特別研究 I	本講義では、拙著とD. ローマーの著書『上級マクロ経済学』(大学院レベルの標準的なテキスト)の議論に沿って、マクロ経済学の標準的な議論を展開する。最初に、マクロの種々の集計概念と経済循環について基礎的な概念を復習する。その後、短期・中期のマクロ経済理論を解説する。まず、経済変動に関する伝統的理論を議論する。次に、名目値調整の不完全性に関する議論を行い、マクロ理論・政策に関する種々の論争について議論を行う。さらに、現代社会の最重要な経済問題であるインフレ(デフレ)と失業・雇用の問題を理論的に考察する。最後に、マクロ的な視点から、社会での女性の活躍を推進する種々の政策について議論する。	
	マクロ経済学特別研究 II	本講義では、D. ローマーの著書『上級マクロ経済学』(大学院レベルの標準的なテキスト)の議論に沿って、長期的な視点から、最近の内生的成長論に至る経済成長理論の潮流について解説する。最初に、ソローの成長理論について展開し、ついで世代重複モデルについて解説する。その後、内生的成長モデルについて、パロー＝サライマーティン等の議論を補足しながら解説する。最後に、女性の社会進出と経済成長との関連について議論する。	
	ミクロ経済学特別研究 I	Silberberg and Suen (2000) "The Structure of Economics: A Mathematical Analysis" をベースに、ミクロ経済学の標準的な議論を行う。前半では、ミクロ経済学に必要な考え方をさまざまな社会科学研究に関連づけていくために、基本概念ならびに経済数学を習得する。後半では、利潤最大化、包絡線定理と双対性、費用関数の導出などを解説し、企業行動の一連のメカニズムを明らかにする。最後に、これらを用いて、女性人材起用の現状を踏まえた集積経済について議論する。	
	ミクロ経済学特別研究 II	Silberberg and Suen (2000) "The Structure of Economics: A Mathematical Analysis" をベースに、ミクロ経済学の標準的な議論を展開する。ミクロ経済学特別研究 I での企業行動の考察に続き、本講義前半では、消費者理論について分析する。次いで、市場均衡について解説し、後半では厚生経済学へと議論を拡張する。最後に、これら一連の分析手法を用いて、経済、生活、環境といったさまざまな側面から、持続可能な地域発展についての理解を深めていく。さらに、女性の活躍を促す社会の創生について、空間経済と都市・地域経済の点から議論する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文社会科学部社会科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	国 際 産 業 社 会 コ ー ス	国際経済学特別研究 I	本講義では、学部レベルの国際経済学の知識を前提に、現在の国際経済問題や最新のトピックスなどを取り上げ、国際経済の動向分析を行う。具体的には、まず、現代の国際経済問題や国際金融危機、国際経済協力、FTAへの対応などについて議論し、そして、ヨーロッパの経済統合と問題点を分析する。後半では、アジアの経済発展や東アジアの経済統合、アジア通貨危機、中国の「経済改革・対外開放」、インドの経済発展の特徴などについて議論する。最後にグローバル経済を展望し、日本の役割を検討する。	
		国際経済学特別研究 II	(英文) This course will introduce both the microeconomic and macroeconomic issues relevant to the economic relations among countries. The first part of the course deals with the microeconomic issues of international trade, and covers such issues as (i) why countries trade, (ii) how the gains from trade are distributed, and (iii) the theory and practice of protectionism. The second part of the course deals with issues in international finance and macroeconomics, and covers such issues as (i) the markets for currencies, (ii) balance of payments definitions, (iii) adjustment processes, and (iv) monetary unions. (和訳) この授業では、各国間の経済関係に関するミクロ経済・マクロ経済の諸問題を取り上げる。前半は国際貿易のミクロ経済の諸問題、後半は国際金融とマクロ経済に関する諸問題を取り扱う。 この授業は、開放経済における財・生産要素・金融資産の国際的なフロー、および貿易政策と金融政策に関する一貫した視点のためのフレームワークを提供することをその目標とする。	
		経営学特別研究 I	現代は組織マネジメントの時代である。行政も企業もNP0も組織に基礎づけられて独自の行動を展開している。組織を理解し、それをマネジメントすることは、経営そのものを考えることになる。本科目では、組織の意義や機能を確認して、企業や公的機関における組織の編成原理、組織のガバナンス、パワー・ポリティクス、組織を動かすリーダーシップ、働く人々のモチベーション、組織の意思決定、組織学習と知識創造など現代のマネジメントの主要な理論を学び、現代企業のマネジメント課題について事例研究をまじえて分析する。	
		経営学特別研究 II	企業は環境に対して開かれたオープン・システムであり、環境に適応しながら存続と成長を追求している。企業が環境との間で競争と協調を図りながら、経済合理性を追求している姿は実にダイナミックであり、個々の企業ごとに実にユニークである。しかし、戦略的適応の成否が、同じ業種にありながら企業間の業績差異を生みだしており、成功している企業の戦略行動には一定のロジックが存在する。ここでは、現代の企業が環境適応を繰り返すダイナミックな様子に注目し、そのロジックを明らかにしながら、戦略の構築と展開について実践的な分析的知識を学んでゆく。 初めに世界的に広く用いられているM. Porterの戦略論を理解し、その後日本企業が直面している課題に基づいてグローバル戦略、技術経営、資源ベースの戦略論などを取り上げてゆく。	
		国際経営特別研究	本講義の狙いは、国際経営に関する最新の理論的、実践的知識の獲得を目指すことにある。到達目標は、講義を通じて、受講生各自が国際経営及び国際経営に付帯する現象に関する知見や洞察力を養うことである。ここではさらに、具体的な国際経営の理論・概念などをケースに即して考え、理解していく。国際経営の理解を深め、国際経営の考え方および考察方法を着実に身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学部社会科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際産業社会コース 専門科目 国際関係コース	人間関係論特別研究	現代社会では、高度情報化、都市化、国際化などの現象が急激に進行し、人々の価値観もまた急激に多様化している。こうした状況下では、産業社会、地域社会、国際社会などにおける人間と人間関係の在り方やその変化について、多種多様な問題が山積している。本科目では、国際産業社会における様々な場での人間と人間関係の問題について「個人」と「組織・社会」の両側面から研究し、女性ならではの実践的な「人間関係力」を養うことを目指す。	
	国際関係論特別研究 I	国際関係論の展開において重要な貢献を果たした理論的著作を精読する。それにより、現在の国際政治を分析する理論的視座を修得する。国際関係論特別研究Iでは、国際関係論の形成に大きな役割を演じたリアリズム論及びそれを発展継承したネオリアリズムの理論を精読する。	
	国際関係論特別研究 II	国際関係論特別研究IIでは、リアリズムに対抗する視点を学ぶ。取り扱う理論としては、平和学、社会構築主義、国際社会論などである。これらの著作を精読することにより、国際関係論特別研究Iで得た理論的視座を補完する。	
	国際法特別研究 I	現代国際法は、19世紀後半に主権国家間の法として完成した近代国際法を基盤としつつ、法主体および規律分野の拡大と規律内容の変革を経ることにより、現在の国際社会で生起する諸問題の多くと関連をもつ、複雑な構造のルールを備えるに至っている。しかも、国際法の形成、適用、解釈は、国内法とは異なる固有の原理に基づいて行われる。本科目では、現代国際法の幅広い規律分野のなかから、総論的ないし伝統的な規律分野を取り上げ、まず、基本文献の講読により当該分野の規律構造および規律内容を十分に把握させる。次いで、関連する国際判例や具体的事例の分析を通じて、国際法の形成、適用、解釈の実際を受講生に体得させる。判例および事例研究では、国際裁判所の判決や国連決議の原文を用いて、研究者と実務家のいずれにも必要となる、国際裁判所および国際組織の文書群に関するリテラシーの涵養も目指す。	
	国際法特別研究 II	本科目では、現代国際法の幅広い規律分野のなかから、各論的もしくは現代的な規律分野を取り上げ、まず、基本文献の講読により当該分野の規律構造および規律内容を十分に把握させる。次いで、関連する国際判例や具体的事例の分析を通じて、国際法の形成、適用、解釈の実際を受講生に体得させる。さらに、それらが伝統的規律分野と現代的規律分野において同一か、異なるとすれば後者においてはどのような特徴がみられるか、それは国際法の基本構造を変化させるものとみなせるかについて考察させ、国際社会が直面する諸問題への対処を可能とする国際法の展開を構想する力を養う。	
	比較憲法学特別研究	本授業は、日本国憲法を他国の憲法と比較して、その特徴や問題性を明らかにすることを目的とする。わが国の憲法の基点となったアメリカ合衆国憲法との比較から始まり、近隣国である北東アジア(韓国・中国など)の憲法と比べながら、人権問題、違憲審査制度などの憲法問題を考究することにする。この授業の特徴は、国際社会で問われる「人権の普遍性」と「人権の地域性」の両面を複眼的に考察することができるような視点から各国憲法の人権問題を分析するところにある。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人文社会科学研究科社会科学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	国際関係コース	国際関係史特別研究 I	<p>今日の国際関係は、17世紀にヨーロッパで成立したヨーロッパ国際秩序であるウェストファリア体制がその起源とされている。この秩序は時代の波を受けてその都度その都度変容していき、今日に至っている。そこで、本講義では、ウェストファリア体制以降の国際秩序—これを国際関係の歴史と言い換えても良いが—の変遷を第二次世界大戦が終わる1945年まで取り上げる。</p> <p>過去の国際関係の歴史は、現代の国際関係にさまざまな影響を与えてきた。一例を挙げれば、18世紀末期から19世紀前半にヨーロッパに登場したナショナリズムは地域紛争の原因のひとつされ、17世紀に登場した内政不干渉の原則は地域紛争の終結に際して(1990年代に登場した人道的介入の概念とともに)不可欠な概念である。</p> <p>このように、現代の国際関係を理解するために必要な諸概念及び諸現象を歴史的な文脈から検討することが本講義の目的である。</p>	
		国際関係史特別研究 II	<p>本講義は、現在の国際関係の史的展開を検討する。具体的には、1945年以降の国際関係史を取り上げる。この時代は、1990年までのアメリカと(旧)ソ連を頂点とするイデオロギー対立の時代とも言える冷戦期と、それ以降の時代(ポスト冷戦期)に分類することができるが、現在の国際関係、例えば、アメリカの支配の将来や核兵器の問題、地域統合、多発する地域紛争、テロの問題を歴史的にどのような枠組みで理解することができるのかを考える。</p>	
		政治哲学特別研究	<p>18世紀ドイツ啓蒙期、アメリカ革命とフランス革命の時代を生きたカントの歴史哲学論考群は、実定的な国境を超えた世界市民的見地に立つ批判哲学の精神を、現実社会体制の不断の改革に向け、具体的に展開叙述したものである。そこで力説される「公共性〔公的開放性〕Öffentlichkeit」の概念は、現代社会の国際化・グローバル化の現状を批判的に論究する社会学・法学・国際関係論等の諸分野でも注目されている。カントの『啓蒙とは何か』を最晩年に講義した現代思想の巨人フーコーの諸論考もまじえ、現代社会の向かうべき道筋を示唆する思想の言葉を聴き取りたい。</p>	
		グローバル協力論特別研究 I	<p>本講義では、国際社会が抱える諸問題の克服へ向けて実践されている様々な「国際協力」を考察し、問題把握のための視座を提示する。更に、課題に果敢に挑戦するための知識と意識を涵養するための基礎的な知識も学ぶ。</p> <p>本当に豊かな社会とは何か、幸せとは何かについてのさまざまな問いかけは、経済的・政治的・社会的・文化的といった総合的な視点から行われるべきである。私自身のスリランカで生まれ育った経験、英国や日本での経験をふまえ、実際の取り組みも重視して、現代世界が直面する様々な問題の解決可能性を地球規模において考えていきたい。</p>	
		グローバル協力論特別研究 II	<p>環境破壊、貧困、紛争・テロなど、現在の国際社会は深刻な問題の数々に覆われている。誰が、何を、どのようにすれば、これらの地球規模問題が解決され、あらゆる人々が安心して平和に暮らすことのできる社会を創造することができるのかを我々の大きな課題である。</p> <p>そこで、本講義では、世界の貧困や格差、紛争・テロなど地球規模問題の全体像と実態を国際政治経済学の視点から体系的に把握し、「根本原因を解明するワークショップ」を通じて、根本原因を徹底的に突き止めたい。その上で、人間のアイデンティティから多国籍企業、グローバル金融資本、アメリカの軍産複合体、日本、そしてグローバル・ガバナンスのあり方まで、考えられる根本原因について、詳しく検討を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学研究科社会科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
国際関係 コース 専門科目	国際社会学特別研究Ⅰ	国際社会学とは、国境を越えたさまざまな過程や構造を社会学の分析枠組みを用いて解明する、比較的あたらしい社会学分野である。国際社会学は過去30年間、国境横断的な諸現象の単なる記述にとどまらず、これまで社会学が自明視してきた国民国家という分析単位を乗り越える理論を生み出してきた。他方で、従来の社会学に特徴的な、具体的な社会関係に根差した実証的考察を踏襲することで、国際関係論や国際政治学とも異なる独自の視角を切り拓いてきた。こうした背景を踏まえながら、20世紀後半に増大した移民という現象に関し、国際社会学で蓄積されてきた理論、および最近注目されている問題群を考察する。移民をめぐるさまざまなケースを取り上げるが、とりわけジェンダーを重要な視角とし、移動の動機および移動過程、出身社会および受け入れ社会での地位、移民コミュニティ、アイデンティティ、政策形成等におけるジェンダーの差異に留意して検討を行う。	
	国際社会学特別研究Ⅱ	グローバル化は、社会学が依拠してきた自己完結的で内発的な「社会」、すなわち国民と国家と社会が一致したシステムという言説を掘り崩す一方で、フローに照準を定めた、境界横断的で脱領域的な理論が構築されつつある。本講義では、グローバル化を切り口として論じられている問題領域の中でも、労働、生殖、ジェンダー政策、文化表象、都市空間、運動連帯といった分野における、ジェンダーの政治が先鋭化している局面に焦点をあてる。とくに、グローバル経済と国民国家の関係の中であらたな役割を与えられた家族/世帯という単位に注目し、そこにみるジェンダーの政治を読み解いていく。	
	ジェンダー特別研究	近年、世界的にも持続可能な社会の構築が必要とされている。国際連合においても、女性の地位や役割についてはジェンダーセンシティブな対応が必要と認識され、そのジェンダー主流化の流れは今後さらに大きくなると考えられる。ここでは、「ジェンダー」や「セクシャリティ」等の概念が生まれた経緯や近年の日本や東アジアにおける男女共同参画政策などを踏まえつつ、ジェンダーの問題を理解する上で重要と見なされている文献を講読する。また併せて、アジアを中心としたジェンダーの問題を理解し是正するために、ジェンダー概念を自身の研究に分析ツールとして用いる場合の手法を学ぶ。教員の講義と各文献担当者のレポートに基づき、受講者全員で議論し考察を深める。	講義 7回 演習 8回
	比較社会特別研究	グローバル化がすすむ中、一つの社会を知る上で家族や地域、民族、ナショナリズムは重要なキーワードとなる。ここでは家族と民族や国家をめぐる人類学や社会学等の文献を講読し、ディスカッションを行う。アジアを中心とした家族、民族、国家等の具体的な諸相、その多様性や普遍性について理解を深める。これにより分析手法や批判的読解力、プレゼンテーション力をつける。参加者は自らテーマを見つけてリサーチ、報告も行う。	講義 8回 演習 7回
	比較地域文化特別研究	アジア地域に根ざす文化、習慣、人々の振る舞いにどのような価値観が築かれているかを念頭に置き、日本と韓国を始めとするアジア文化に焦点を当て、比較地域文化論について研究を行う。	
	中国現代文学と文化特別研究	中国現代史を辿りつつ、中国現代文学の成長過程や独自の進化の道などを考察することで、現代中国人の思想構造、社会意識の生成および文化の変容を把握する。そしてそれを通して、互いに影響しつつも多岐に亘って発展する東アジア諸国の文化やその歴史への理解を深める。	
	共通	国際演習Ⅰ	修士論文作成の過程で取り上げる研究プロジェクトを、多彩な学問的関心を有す学生と指導教員全員の前で発表し、依拠する理論、データ収集、論の展開などについて議論を交わし、学問的鍛え合いにより、研究の質的向上を図る機会を提供する。学生の各発表は、学会発表や修士論文の中核を構成することとなる。

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学研究科社会科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	共通 国際演習Ⅱ	修士論文作成の過程で取り上げる研究プロジェクトを、多彩な学問的関心を有す学生と指導教員全員の前で発表し、依拠する理論、データ収集、論の展開などについて議論を交わし、学問的鍛え合いにより、研究の質的向上を図る機会を提供する。学生の各発表は、学会発表や修士論文の中核を構成することとなる。特に修士2年次では、研究テーマの論証ができてきているかを中心に、修士研究の幅や深みが増すように、専門が異なる教員や院生との討議が展開される。	
基本科目	研究の倫理と方法	研究活動とその成果である論文の適切な有り方が、国際的にも厳しく問われている。修士研究に取り組むにあたって、遵守すべき研究の倫理とはなにか、また研究論文が満たすべき内容とそのための論文の作成の有り方について検討する。	
	歴史と社会	近世の都市の例として近世の京都を挙げる。近世の京都が幕府直支配三つの一つであった。新興都市江戸と大坂と違って、長い伝統を踏まえて、近世都市に発展した。近世の文化の一つの中心地でもあった。幕府の所司代、町奉行、京都代官、二条定番の幕府諸役ほかの朝廷、諸宗派の本山、諸藩の屋敷、御用達の商人などの複数の勢力が存在した。近世都市であった京都を詳しく見たうえ、ドイツを中心にして、ヨーロッパの近世都市を見て、近世の京都との共通点・相違点を探る。終わりに、日本とヨーロッパでの近世の要素の衰退、近代的な要素の増加を追究する。	
	グローバル社会と英語	世界の様々な英語について、文化と言語との関わりに注目しながら学ぶ。英国、米国およびその他の英語圏の英語と、カリブ地域、アフリカ、アジア、さらにインターネット文化のなかで新しく登場した語彙にも注目し、英語の文化的・言語的な多層性を理解する。	
	アカデミックライティング・プレゼンテーション	簡単なリサーチを行い、論文を書く過程を学ぶ。 ライティングでは、構成力と書く技術の2点に焦点を当てる。MLA・APAなどの様式を使い、論文の各パーツの機能と構成を、実際のライティングを通して学ぶ。また説得力のある文章を書くために、論理的な構成、全体のまとめなどに注目し書く練習をする。 プレゼンテーションでは、構成、口語と文語の違いなどに注意して、より説得力があり、わかりやすいプレゼンテーションとは何かを、実際のプレゼンテーションを通して学ぶ。	
	人文社会統計学	本講義では人文・社会科学分野で必要となる統計解析手法について解説する。はじめに統計学および標本調査の基本事項を確認する。その後、人文・社会科学分野の学術論文で多く見られる、線形回帰モデルやロジスティック回帰モデルを実際の学術論文で取り上げられたデータに適用した例を用いて解説する。さらに、これらのモデルを一般化した一般化線形モデルについて紹介する。	
	国際研究活動	国外の大学、研究機関、企業などが主催する専門領域に関連したプロジェクト、就業体験等への参加や、国外での調査・研究活動等とその成果を単位として認定する。海外での活動を通して、自らの研究を国際的な視野で位置づけ、あるいは拡張・深化するだけでなく、自らの国際性、コミュニケーション能力を向上させる。 なお、単位としての認定を受けるためには、指導教員および研究科長による研究計画の事前承認が必要であり、海外での研究活動(実働5日以上)に加え、担当教員による事前および事後の講義(7コマ)を受講する必要がある。	講義 7回 実習 5日

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学研究科社会科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	修士特別研究	<p>(25 大住 圭介) 特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。 研究指導のテーマは、内生的成長や失業・インフレなどのマクロ経済現象の理論的研究である。</p> <p>(26 塩次 喜代明) 特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。 研究指導のテーマは、企業の経営管理や戦略行動に関する研究である。</p> <p>(27 尹 豪) 特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。 研究指導のテーマは、中国や東アジアにおける人口動態と経済変化に関する研究である。</p> <p>(28 武 継平) 特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。 研究指導のテーマは、現代中国の文学と文化の変容に関する研究である。</p> <p>(29 森 邦昭) 特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。 研究指導のテーマは、解釈学に基づく文化や社会の理解に関する研究である。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(人文社会科学研究科社会科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	修士特別研究	<p>(30 望月 俊孝)</p> <p>特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。</p> <p>研究指導のテーマは、カントの公共性の概念を基にした現代社会の哲学研究である。</p> <p>(31 岡 克彦)</p> <p>特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。</p> <p>研究指導のテーマは、日本国憲法を米国や東アジアと比較して人権を考える研究である。</p> <p>(32 チョウドリ マハブブル アロム)</p> <p>特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。</p> <p>研究指導のテーマは、東アジアの産業の発展をめぐる経済学的及び経営学的な研究である。</p> <p>(33 宮崎 聖子)</p> <p>特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。</p> <p>研究指導のテーマは、ジェンダーや家族や民族をめぐる文化人類学的な研究である。</p> <p>(37 吉田 信)</p> <p>特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。</p> <p>研究指導のテーマは、国際関係の歴史と理論に関する研究である。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（人文社会科学研究科社会科学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	修士特別研究	<p>（38 深町 朋子） 特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。 研究指導のテーマは、国際法の形成、適用、会社に関する研究である。</p> <p>（40 張 艶） 特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。 研究指導のテーマは、国際金融、貿易、アジア経済など国際経済に関する研究である。</p> <p>（42 中村 大輔） 特別研究では、院生が自らの問題意識と研究計画に基づいて主体的に研究に取り組み、知識の創造を通じて現象に潜む論理的説明能力を育成する。研究課題の設定、仮説の設定、仮説の検証、解析したデータや確かな論証に基づく体系的な論証という一連の知的探求を通じて、社会現象に内在する課題の本質を明らかにして、現象を説明する論理を院生が主体的に探究することを指導し、社会現象への課題解決能力を涵養させる。そして研究の成果は修士論文に結実するように指導する。 研究指導のテーマは、ミクロ経済理論に基づく市場と価格の厚生経済的な研究である。</p>	